

第2章

二本松市民の健康状況

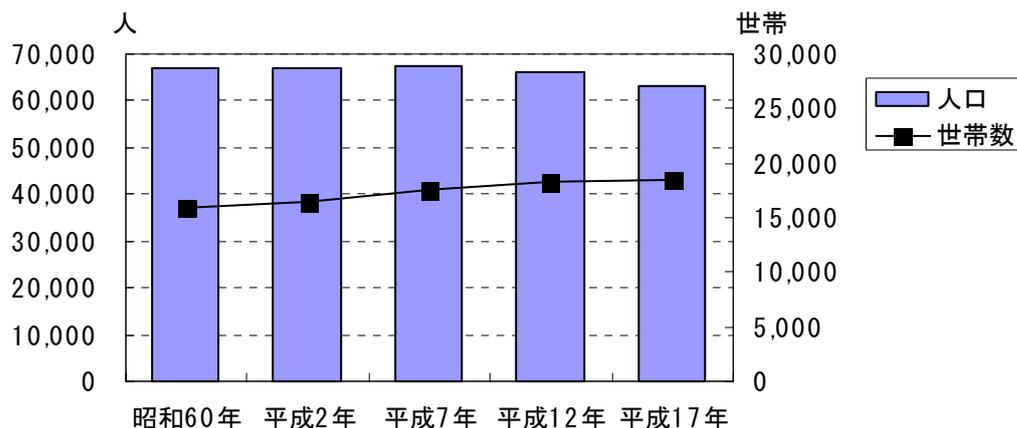
第1節 二本松市の人口

1 二本松市の人口

(1) 人口の推移

平成17年10月1日現在の二本松市の人口は、63,157人、世帯数は18,431世帯です。

人口は平成7年をピークに年々減少していますが、世帯数は昭和60年以降年々増加しています。

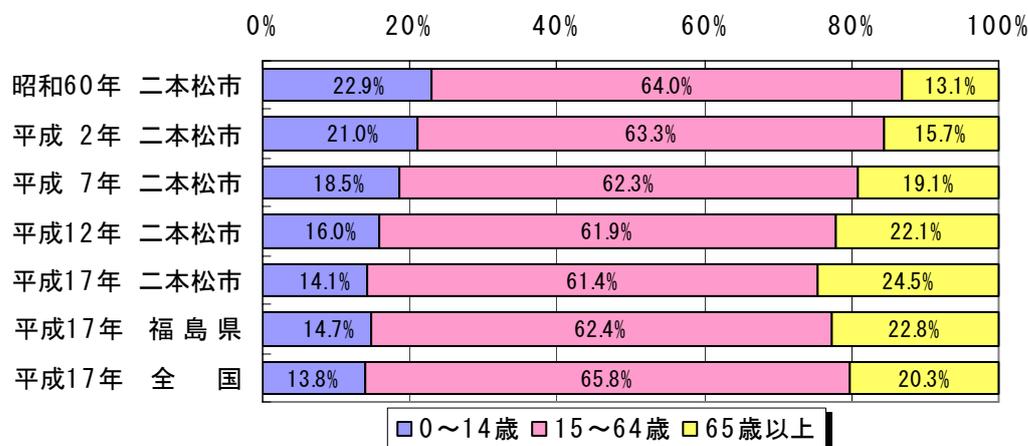


	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
人口	67,154	66,988	67,269	66,077	63,157
世帯数	15,854	16,437	17,505	18,216	18,431

資料：国勢調査

(2) 年齢区分別人口割合の推移

0～14歳の「年少人口」と15～64歳の「生産年齢人口」の占める割合は、年々減少しています。その一方で、65歳以上の「老年人口」の占める割合（高齢化率）が年々高くなっており、急速に少子高齢化が進んでいるといえます。

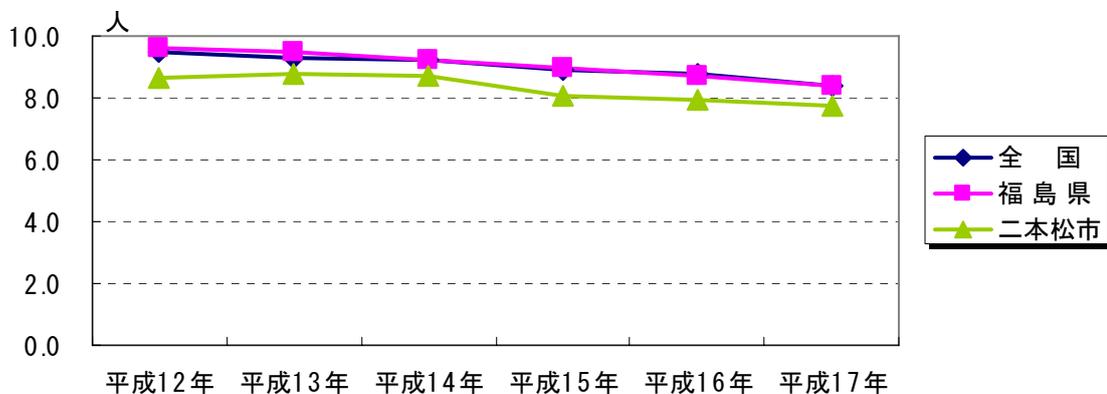


資料：国勢調査

2 人口動態

(1) 出生率（人口1,000人当たり）

全国、福島県の水準を下回っています。また、年々低くなっています。



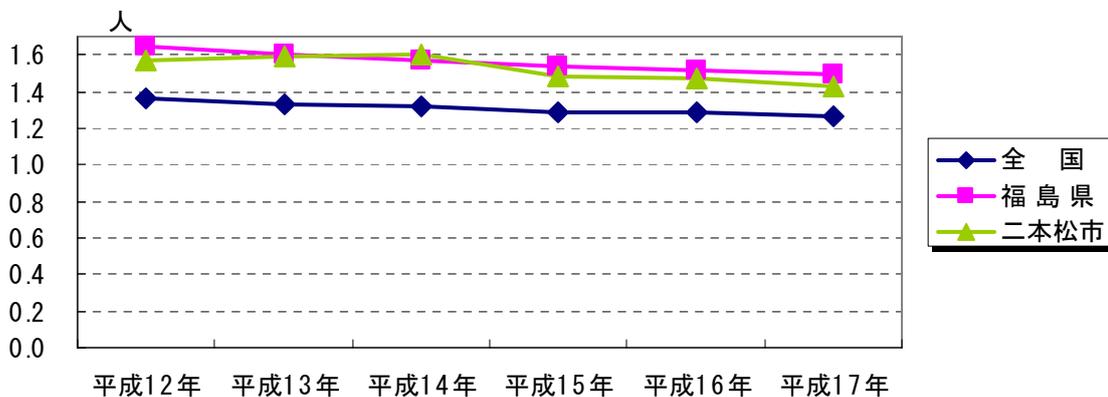
(単位：人)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
全国	9.5	9.3	9.2	8.9	8.8	8.4
福島県	9.6	9.5	9.2	9.0	8.7	8.4
二本松市	8.7	8.7	8.7	8.0	8.0	7.7

資料：人口動態統計

(2) 合計特殊出生率¹（人口1,000人当たり）

全国の水準を上回っていますが、福島県の水準を下回っています。年々低くなっています。



(単位：人)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
全国	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26
福島県	1.65	1.60	1.57	1.54	1.51	1.49
二本松市	1.57	1.59	1.60	1.48	1.47	1.42

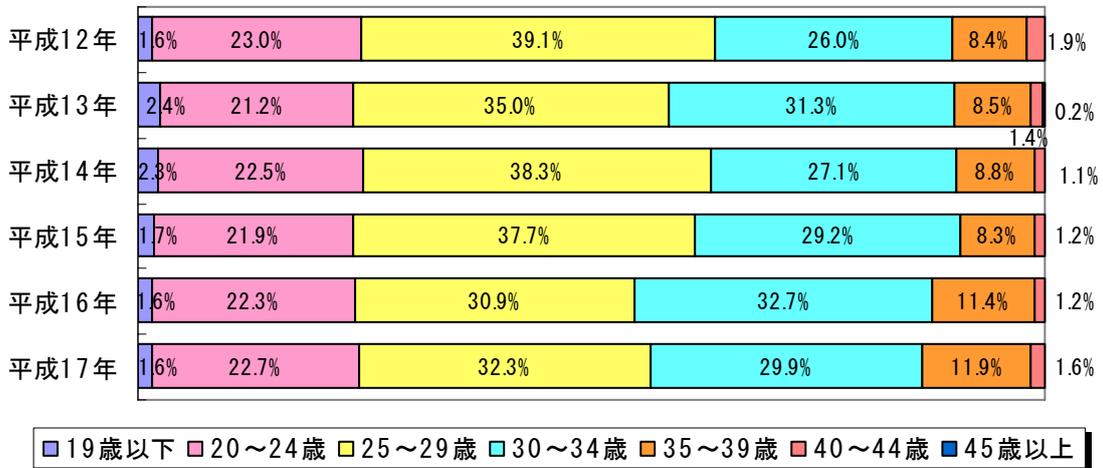
資料：人口動態統計

1 合計特殊出生率

15歳から49歳までの女子の年齢別出生率の合計。1人の女性が生涯に産む子どもの数の平均を表す。

(3) 母の年齢別出生割合

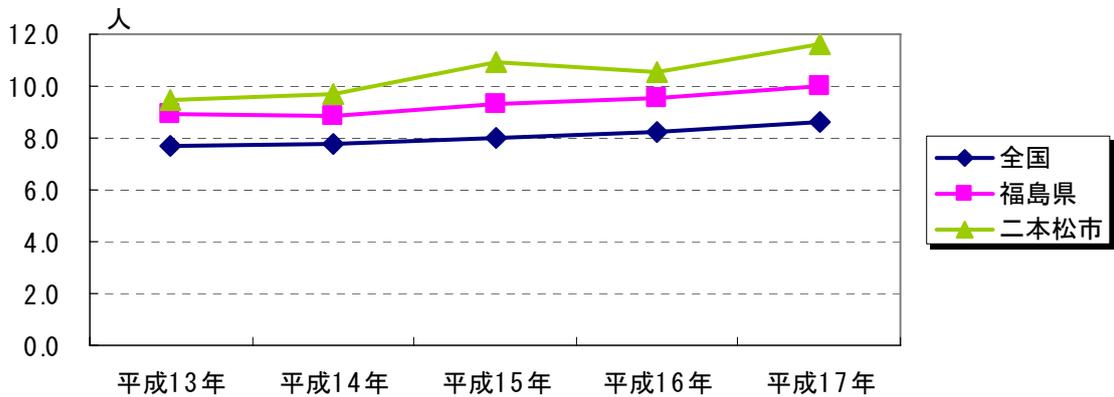
30代の出産が増えています。



資料：福島県県北保健福祉事務所データベース

(4) 死亡率（人口1,000人当たり）

全国、福島県の水準を上回り、年々高くなっています。



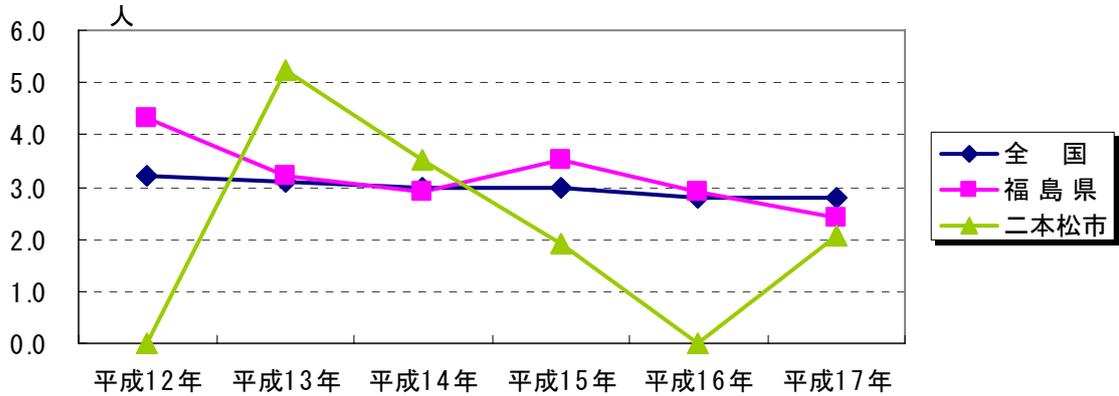
(単位：人)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
全 国	7.7	7.8	8.0	8.2	8.6
福 島 県	8.9	8.9	9.3	9.5	10.0
二本松市	9.5	9.7	10.9	10.5	11.6

資料：人口動態統計

(5) 乳児死亡率¹（出生1,000人当たり）

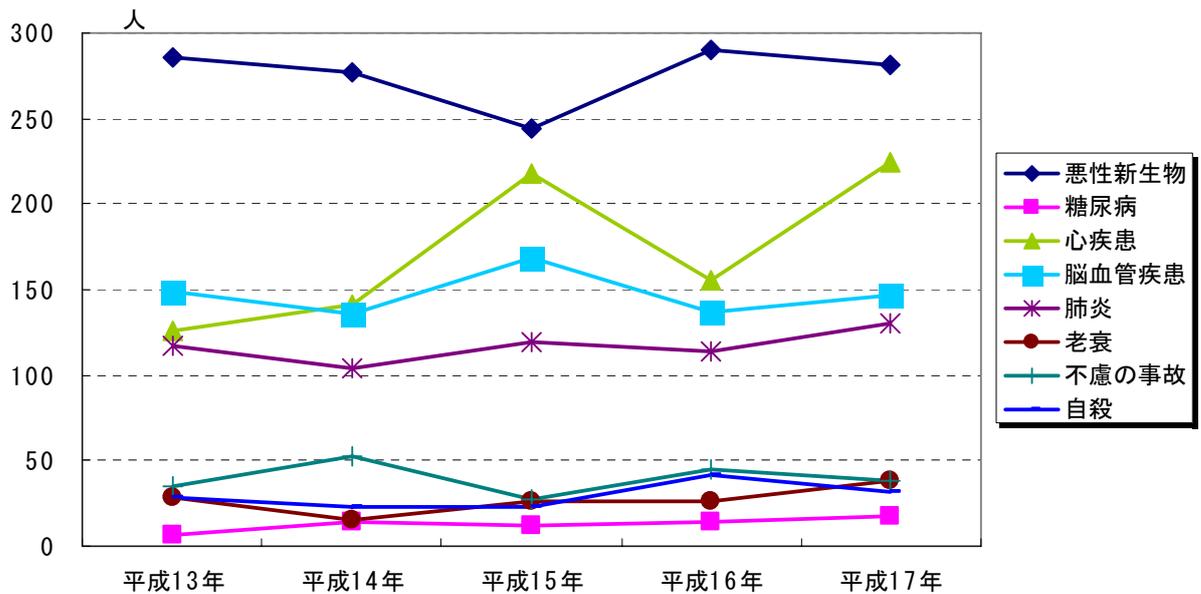
乳児の死亡率は、減少傾向にあります。



資料：人口動態統計

(6) 主要死因別死亡率（人口10万人当たり）

悪性新生物（がん）、心疾患（心臓病）、脳血管疾患（脳卒中）が三大死因となっています。また、心疾患（心臓病）による死亡率が年々高くなっています。



資料：人口動態統計

1 生後1歳未満の乳児の死亡率を乳児死亡率といいます。

(7) 平成13～17年 年齢階級別死因順位（第1位～第5位）及び死亡率（人口10万人当たり）

0～19歳では「不慮の事故」、20～39歳では「自殺」、40～59歳では、「悪性新生物（がん）」、「自殺」、「心疾患（心臓病）」が上位を占めています。また、60歳以上は、「悪性新生物」、「心疾患」、「脳血管疾患（脳卒中）」が三大死因となっており、「肺炎」による死因が第4位となっています。

（単位：人）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0～9歳	先天性奇形 13.5	悪性新生物・不慮の事故 各10.1	乳幼児突然死症候群 ¹ 6.8	—	—
10～19歳	不慮の事故 12.6	悪性新生物・自殺 各5.1	肺炎・筋委縮症 各2.5	—	—
20～29歳	自殺 31.0	悪性新生物 8.5	不慮の事故 5.6	その他消化器系疾患 2.8	心疾患 2.8
30～39歳	自殺 23.2	不慮の事故 8.7	悪性新生物 8.7	脳血管疾患 8.7	肺炎 2.9
40～49歳	悪性新生物 53.4	自殺 41.8	心疾患 37.1	不慮の事故 25.5	脳血管疾患 9.3
50～59歳	悪性新生物 175.2	心疾患 79.1	自殺 44.9	不慮の事故 32.1	肺炎 17.1
60～69歳	悪性新生物 446.2	心疾患 132.8	脳血管疾患 74.4	肺炎 42.5	不慮の事故 39.8
70～79歳	悪性新生物 831.5	心疾患 378.7	脳血管疾患 299.2	肺炎 275.4	その他呼吸器系疾患 113.9
80歳以上	脳血管疾患 1,702.6	心疾患 1,649.4	悪性新生物 1,558.9	肺炎 1,298.2	老衰 441.6

資料：健康増進課調べ

1 乳幼児突然死症候群(SIDS)

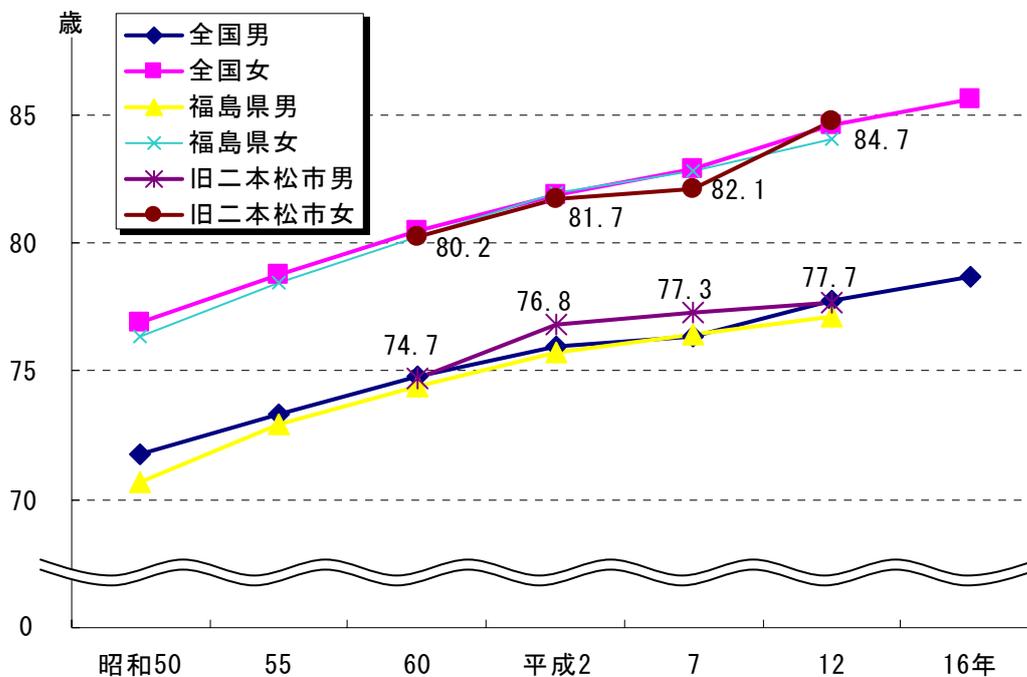
それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく眠っている間に突然死亡してしまう病気。いずれも直接の原因ではないが「うつぶせ寝」、「人工栄養による授乳」、「乳幼児の前での喫煙」が乳幼児突然死症候群(SIDS)の発生率を高める因子であるということがこれまでの研究で明らかになっている。

第2節 二本松市民の健康水準

1 平均寿命と健康寿命

(1) 平均寿命の推移

平均寿命が年々延びています。



資料：福島県保健統計の概況

(2) 平均余命と健康寿命 (福島県との比較)

二本松市の0歳平均余命(平均寿命)は、男女とも福島県より下回っていますが、65歳平均余命は男性が17.5歳、女性が21.8歳で、男性は福島県と比較すると0.2年長く、女性は0.1年短い状況です。

	二本松市		福島県	
	男性	女性	男性	女性
0歳平均余命(平均寿命)	77.2	84.0	77.5	84.2
65歳平均余命	17.5	21.8	17.3	21.9
65歳健康寿命	15.0	18.5	15.8	18.6
障害期間	1.5	3.2	1.6	3.4

資料：切明 義孝「介護保険制度を利用した健康寿命計算」
(平成13年～平成17年の死亡者数と平成15年の年齢別人口・年齢別介護保険被保険者数・受給者数より算出)

2 死亡の状況

(1) 死亡の状況（全死亡）

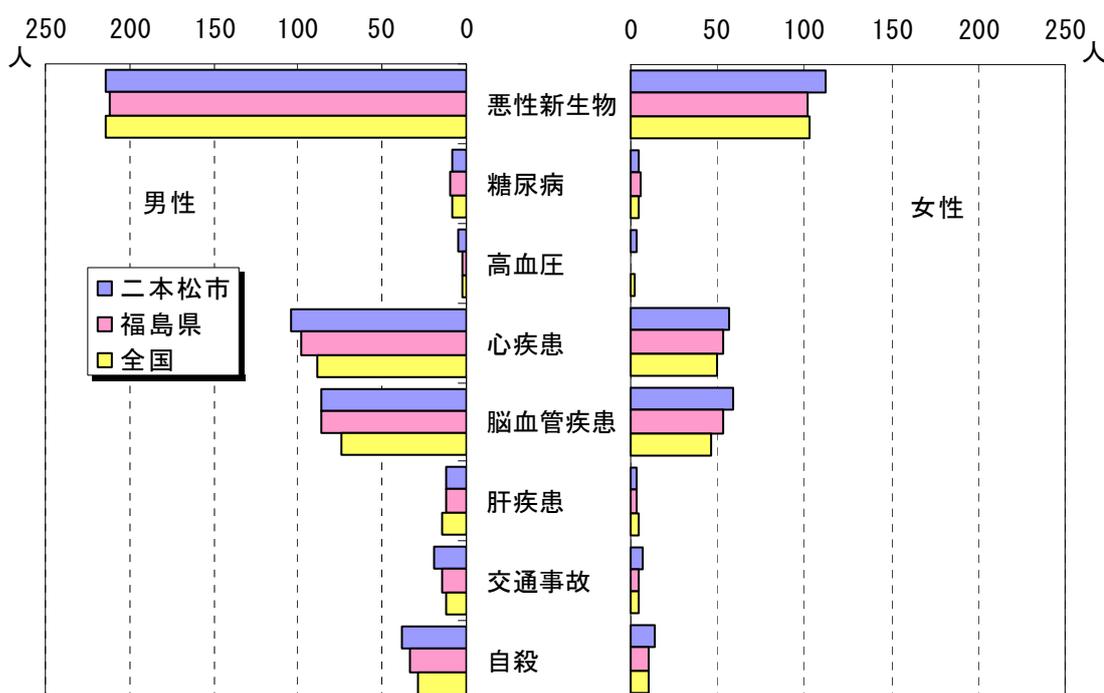
死亡率¹は、全国、福島県より高く、年齢調整死亡率²でも、男女とも全国、福島県より高くなっています。また、全死亡の標準化死亡比（SMR）³でも、全国よりも男女それぞれ100を超え全国より高く、市民の死亡状況に問題があるといえます。

	二本松市		福島県		全 国	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
死亡率全体	11.0		10.0		7.8	
死亡率	12.1	9.9	11.1	8.9	8.7	6.9
年齢調整死亡率	7.3	3.8	6.7	3.4	6.4	3.3
標準化死亡比（SMR）	105.1	106.9	104.3	103.5	100.0	100.0

資料：人口動態統計、福島県保健福祉部「保健統計の概況」、福島県企画調整部「福島県の推計人口」

(2) 死因別死亡（年齢調整死亡率：人口10万人当たり）

全国、福島県よりも悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、自殺による死亡率が高くなっています。



資料：福島県保健福祉部「保健統計の概況」
 福島県企画調整部「福島県の推計人口」
 平成8年～17年累計（年齢調整は昭和60年モデル人口を使用）

1 死亡率

死亡数÷人口 10年間（H8～17）累計。人口1,000人当たり。

2 年齢調整死亡率

年齢の影響を取り除いて算出した死亡率 10年間（H8～17）累計。人口1,000人当たり。

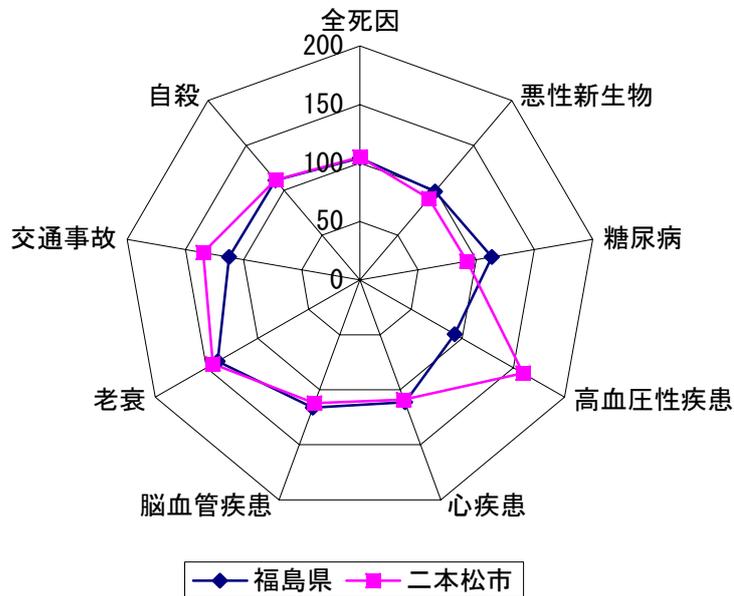
3 標準化死亡比（SMR）

全国を100として年齢の影響を取り除いて死亡状況を見る指標。全国（平成8年～平成17年）を100とした場合。

(3) 主要死因別死亡（標準化死亡比）

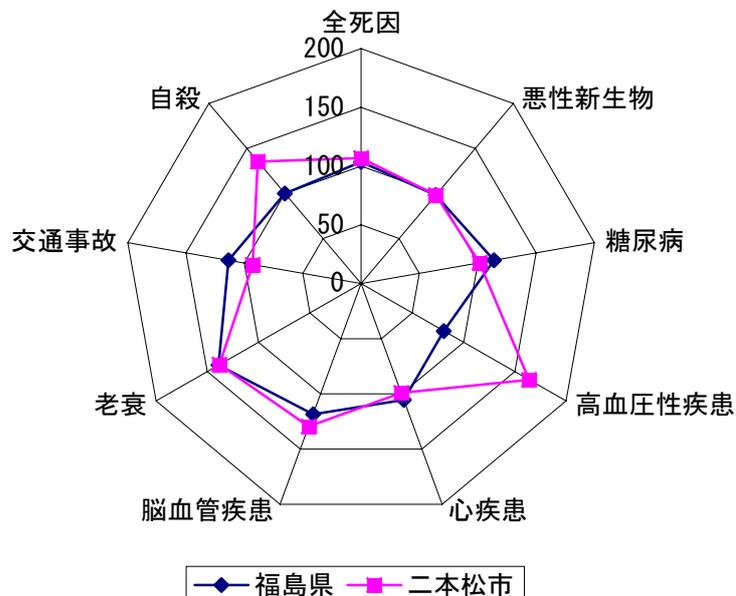
① 男性

全国よりも高血圧性疾患、交通事故、心疾患、脳血管疾患、自殺、老衰の死亡比率が高くなっています。



② 女性

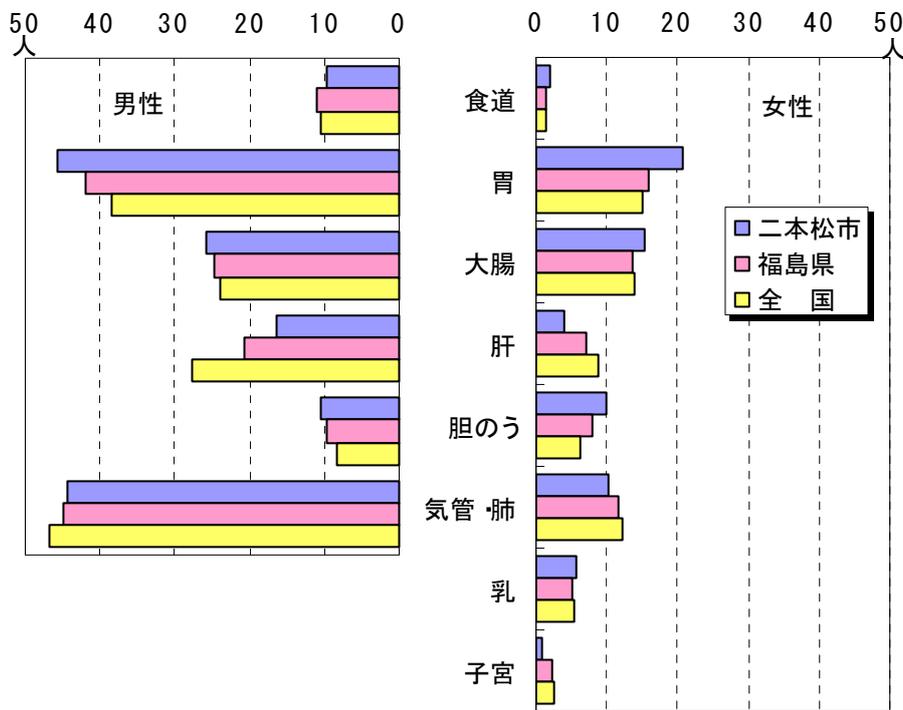
全国よりも高血圧性疾患、自殺、脳血管疾患、老衰の死亡比率が高くなっています。



資料：福島県県北保健福祉事務所データベース
全国(平成8年～平成17年)を100とした場合

(4) がん死亡（年齢調整死亡率：人口10万人当たり、平成8年～17年累計）

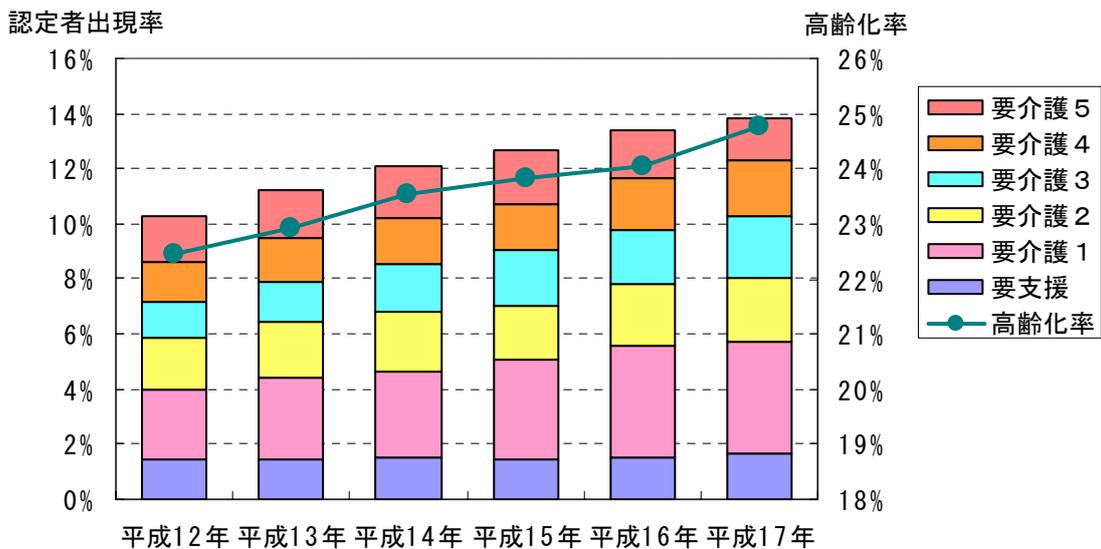
全国、福島県より男性は、胃がん、大腸がん、胆のうがんによる死亡率が高くなっています。女性は、食道がん、胃がん、大腸がん、胆のうがん、乳がんが高くなっています。



資料：県北保健福祉事務所データベース

(5) 要介護（要支援）認定者出現率と高齢化率

高齢化に伴い要介護者が増えています。



資料：厚生労働省介護保険事業状況報告（年度末の認定者数と直近の4月1日の人口で算出）

(6) 疾病の状況（国民健康保険）

年齢階層別上位5疾病の受診率（二本松市被保険者1,000人あたり）

0～19歳では、「むし歯」、「かぜ」、「ケガ」、20～39歳では、「歯周病」、「精神に関する病気」、40～64歳では、「高血圧症」、「歯周病」、「精神に関する病気」、「糖尿病」、65歳以上では、「高血圧症」、「糖尿病」などでの受診が上位を占めています。

（単位：件）

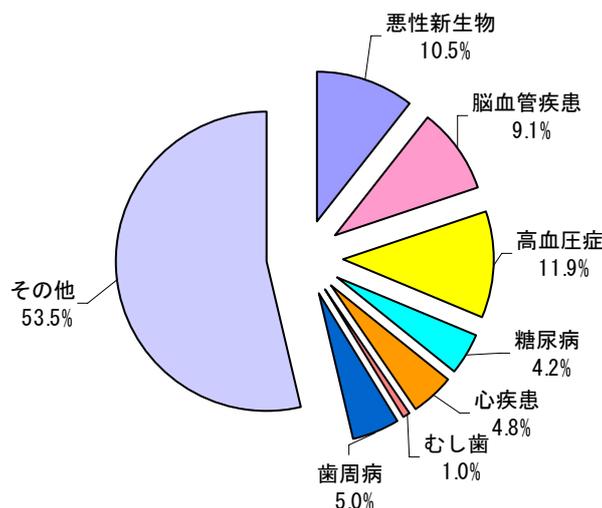
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0～4歳	かぜ（その他の急性上気道感染症） 11.29	急性気管支炎等 9.65	皮膚炎等 9.45	かぜ（急性鼻咽頭炎） 8.21	喘息 7.19
5～9歳	むし歯 10.48	急性気管支炎等 4.76	喘息 4.00	皮膚炎等 3.62	かぜ（急性咽頭炎及び急性扁桃炎） 3.24
10～14歳	損傷及びケガ等 3.59	近視、乱視、遠視等 3.13	むし歯 2.66	かぜ（急性咽頭炎及び急性扁桃炎） 2.03	かぜ（その他の急性上気道感染症） 2.03
15～19歳	近視、乱視、遠視等 4.47	損傷及びケガ等 2.86	皮膚炎等 1.86	むし歯 1.49	かぜ（その他の急性上気道感染症） 1.37
20～29歳	歯肉炎及び歯周病等 6.13	近視、乱視、遠視等 5.17	歯そが骨等の障害 3.96	統合失調症等 3.60	皮膚炎等 3.49
30～39歳	歯肉炎及び歯周病等 8.00	統合失調症等 7.20	躁うつ病 4.15	むし歯 3.60	歯そが骨等の障害 3.03
40～49歳	歯肉炎及び歯周病等 7.94	統合失調症等 6.64	高血圧症 5.74	歯そが骨等の障害 4.30	むし歯 3.51
50～59歳	高血圧症 20.60	歯肉炎及び歯周病等 9.64	糖尿病 6.25	ホルモン分泌異常等 5.77	統合失調症等 5.50
60～64歳	高血圧症 22.33	歯肉炎及び歯周病等 5.81	ホルモン分泌異常等 4.46	近視等を除く目の病気 3.83	糖尿病 3.69
65～69歳	高血圧症 24.76	近視等を除く目の病気 7.36	糖尿病 5.91	歯肉炎及び歯周病等 5.40	ホルモン分泌異常等 5.00
70～74歳	高血圧症 29.69	近視等を除く目の病気 7.75	糖尿病 6.76	白内障 5.78	歯肉炎及び歯周病等 5.59
75～79歳	高血圧症 33.84	近視等を除く目の病気 8.60	白内障 7.73	糖尿病 6.36	脳梗塞 5.83
80～84歳	高血圧症 34.68	白内障 8.67	脳梗塞 8.33	近視等を除く目の病気 7.93	狭心症及び心筋梗塞等 5.99
85歳以上	高血圧症 33.46	脳梗塞 12.40	狭心症及び心筋梗塞等 5.94	白内障 4.92	近視等を除く目の病気 4.84
全体	高血圧症 17.97	近視等を除く目の病気 4.44	歯肉炎及び歯周病等 3.99	糖尿病 3.61	白内障 3.03

資料：平成19年5月分福島県国民健康保険疾病分類統計

(7) 医療費の状況（国民健康保険診療費）

① 主な生活習慣病にかかる医療費割合（平成19年5月診療分）

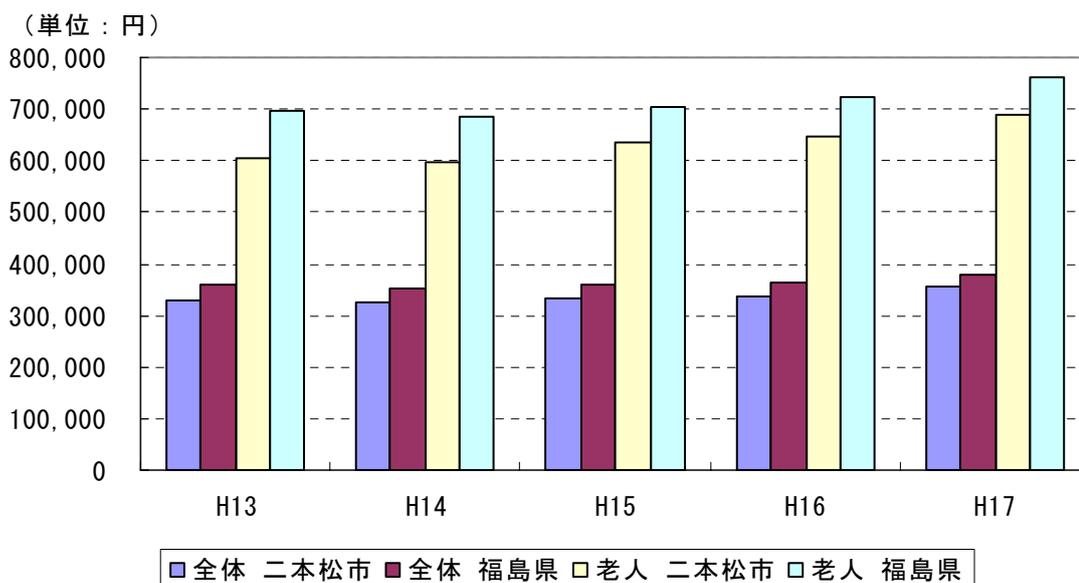
総医療費 : 564,900,180 円
 うち主な生活習慣病にかかった医療費 : 262,730,100 円（総医療費の46.5%）



資料：平成19年5月分福島県国民健康保険疾病分類統計

② 一人あたり医療費（旧二本松市）

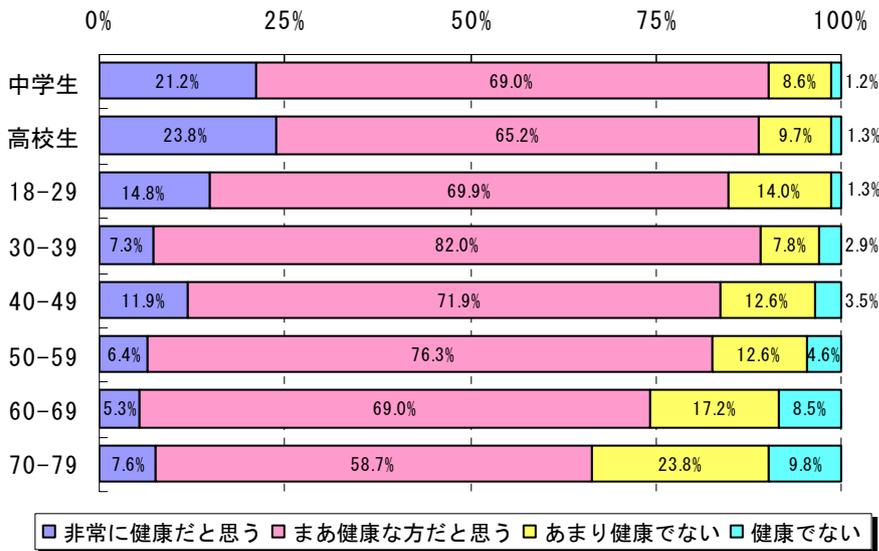
一人当たりの医療費は、全体、老人医療費とも福島県より低いですが、年々増加しています。



資料：福島県国民健康保険団体連合会「国民健康保険のすがた」※二本松市は合併前の状況

(8) 健康意識

問. あなたは普段自分で健康だと思えますか。

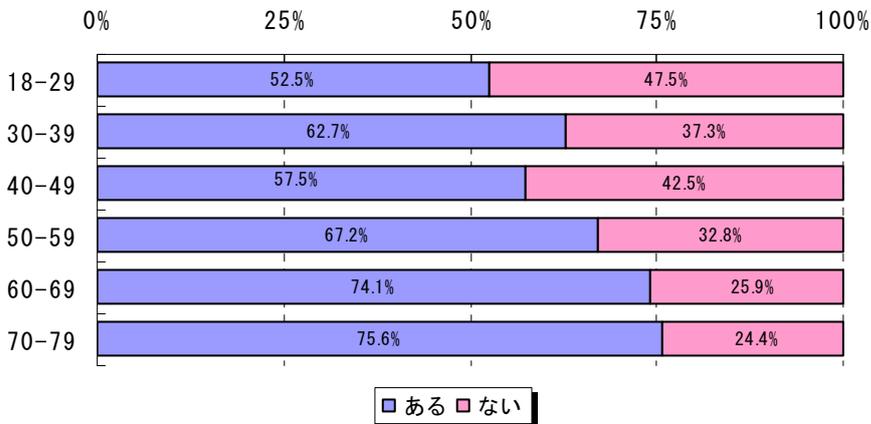


● 年齢が高くなるにつれ「あまり健康でない」と「健康でない」と思う割合が増加しています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

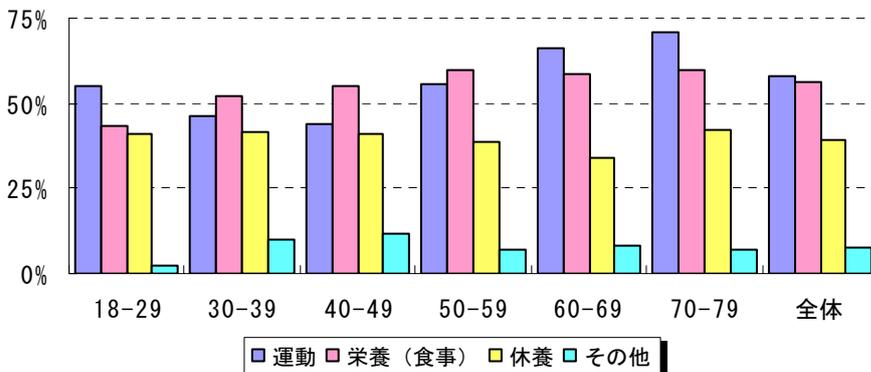
(9) 健康のために何かしていること

問. あなたは健康のために何かしていることはありますか



● 年齢が高くなるにつれ「ある」と答えた割合が増加しています。

問. 「ある」と答えた場合それはどんなことですか (複数回答)



● 各年代とも「運動」と「栄養(食事)」と答えている割合が高いです。

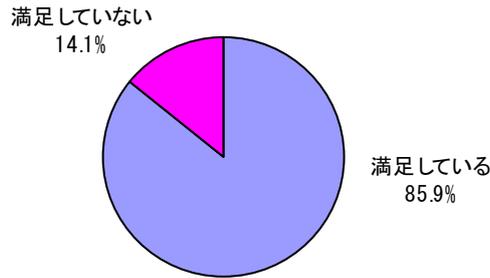
資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

第3節 ライフステージごとの現状と健康課題

1 妊娠・出産期

(1) 妊娠・出産の状況など

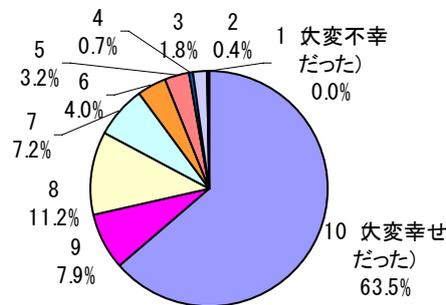
問. お子さんを妊娠、出産したときの状況はいかがでしたか。(母親回答)



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

● 「満足している」が、国（健やか親子21中間報告調査2005）の91.4%より低くなっています。

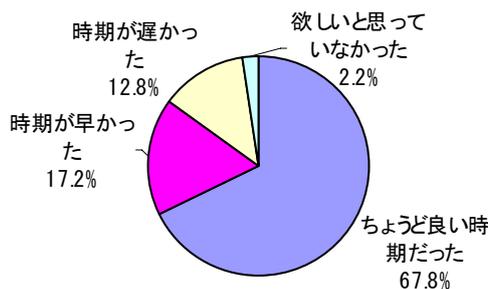
問. お子さんを妊娠したときのお気持ちについて教えてください(母親回答)



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

● 10段階評価で6~10の割合が93.8%を占めています。

問. お子さんを妊娠した時期について、妊娠したときのお気持ちを思い出してお教えてください(母親回答)

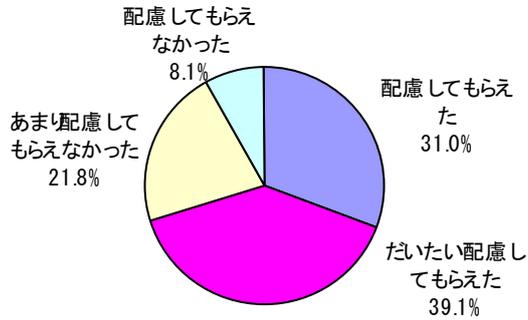


資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

● 「欲しいと思っていなかった」と「時期が早かった」を合わせると19.4%でした。

(2) 妊娠中の仕事

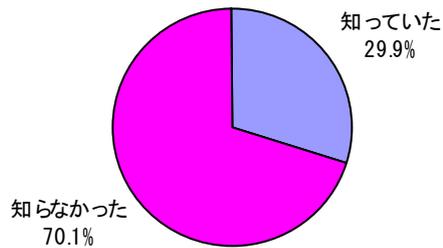
問. 妊娠したことで、仕事上配慮してもらえたと思いますか（仕事をしていた母親回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「配慮してもらえなかった」と「あまり配慮してもらえなかった」を合わせると 29.9%でした。

問. あなたは、母性健康管理者連絡事項カードを知っていましたか（仕事をしていた母親回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「知っていた」が 29.9%でした。
国（健やか親子21中間報告調査 2005）の 19.8%より高い結果になりましたが、7割の母親が「知らなかった」と答えています。

(3) 妊娠中の喫煙・飲酒

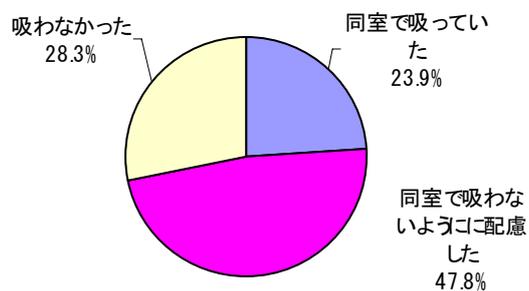
問. あなたは、妊娠中にたばこを吸っていましたか（母親回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 国（健やか親子21中間報告調査 2005）の 7.3%〔3か月児健診〕より低くなっています。
しかし、胎児への影響があることを理解しましょう。

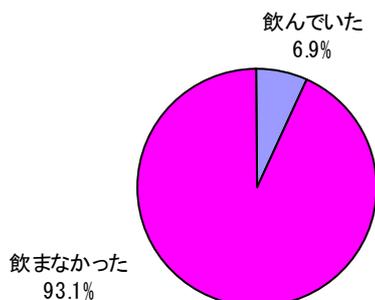
問. あなたの妊娠中に同居の家族はたばこを吸っていましたか（母親回答）



- 同室で吸っていたが 23.9%を占めます。受動喫煙防止に心掛けましょう。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. あなたは、妊娠中にお酒を飲みましたか（母親回答）



- 「飲んでいた」が 6.9%でした。アルコールは胎児の健康に影響があります。妊婦が飲まないためにも家庭で配慮しましょう。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

◇ ワーキンググループ会議での意見（妊娠・出産期）

「妊娠・出産期の健康な暮らしを考えた場合、現状はどのようになっていますか？
また、問題だと思ふことはどんなことですか？」

○ 望まない妊娠がある

福島県の人工妊娠中絶率が高い。

思春期・成人期における性教育が不十分なのではないか。

○ 父親（夫）の協力がもう少しあったら

妊婦健診を夫と一緒に受診したいが、夫は妻の妊婦健診を理由に仕事を休みづらい。

妊娠中のつわりについて夫に理解してもらうのは難しい。

妊娠中から父親としての自覚を持ってもらうのは難しいのではないか。

○ 子育て中の妊娠

二人目の妊娠となると子育てに追われることもあり、ゆったりとした気持ちでは過ごせないことが多い。

妊娠中に子どもを気軽に預けることができない。

○ 妊娠中の社会の気遣い

社会全体で妊婦に対する気遣いができる体制になっていないと思う。

○ 出産後の仕事

出産後に仕事を続けたいと思っても退職せざるを得ない状況にある人がいる。

○ 妊娠・出産の安心

安心して妊娠・出産できる病院が少ないのではないか。

○ 不妊について

不妊に悩む人への公的な支援体制が十分に整っていないと思う。

◆ 健康課題のまとめ（妊娠・出産期）

① 妊娠・出産に対して不安を抱えています

（H18 市民の健康と生活習慣調査、ワーキンググループ会議）

② 望まない妊娠があります

（H18 市民の健康と生活習慣調査、ワーキンググループ会議）

③ 不妊で悩んでいる人がいます

（ワーキンググループ会議）

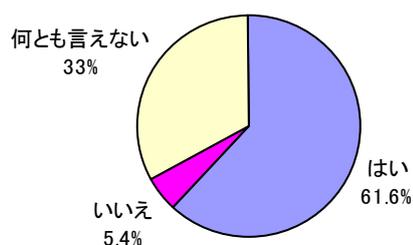
④ 妊娠中の飲酒・喫煙があります

（H18 市民の健康と生活習慣調査）

2 乳幼児期（0～就学前の親子）

(1) 育児不安

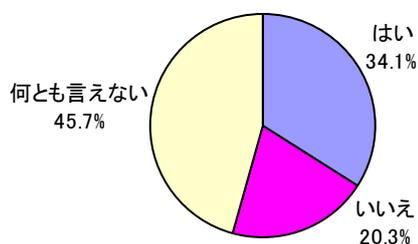
問. お母さんはゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がありますか（母親回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「はい」が61.6%占めましたが、国（健やか親子21）の68.0%より低い結果になりました。

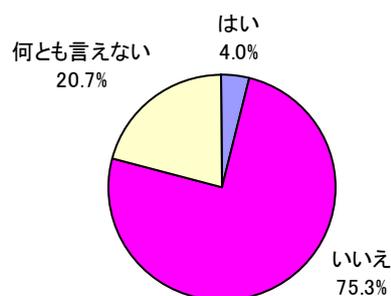
問. お母さんは育児に自信が持てないことがありますか（母親回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「はい」が34.1%で国（健やか親子21）の27.4%より高い結果でした。
育児不安解消のための支援が必要です。

問. お母さんは子どもを虐待していると思いますか（保護者回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「はい」が4%です。

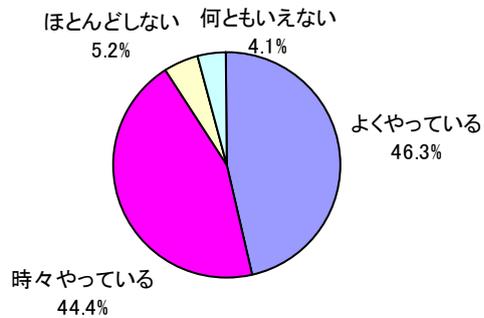
問. お父さんは子どもを虐待していると思いますか
(保護者回答)



● 「はい」が1%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

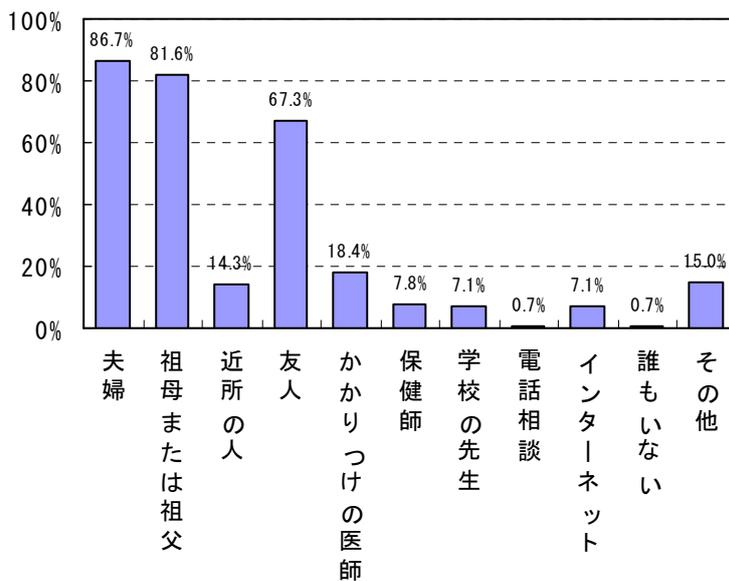
問. お父さんは育児に参加してくれますか
(保護者回答)



● 「よくやっている」が46.3%でした。国（健やか親子21）の37.4%より高い結果でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. お母さんの日常の育児の相談相手は誰ですか。
(母親回答)

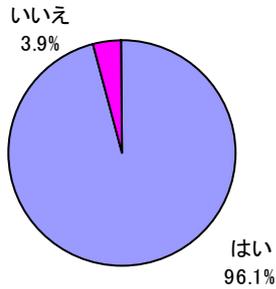


● 「誰もいない」が0.7%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(2) 乳幼児の生活習慣（1歳以上）

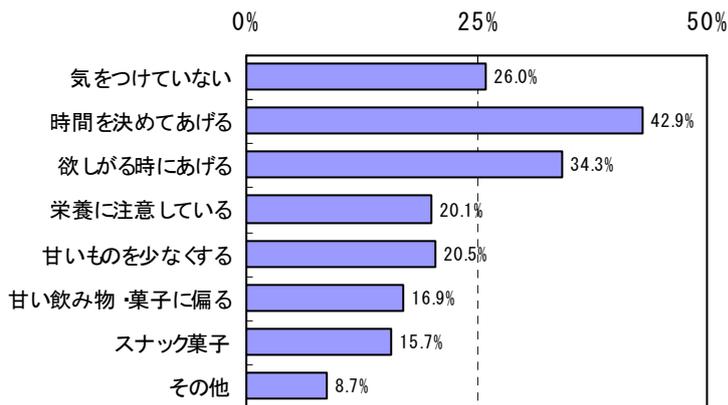
問. 朝食はだいたい毎日とっていますか（保護者回答）



● 「いいえ」が3.9%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

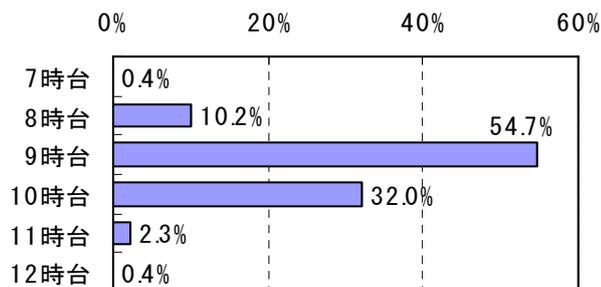
問. おやつを与え方をどのようにしていますか（保護者回答）



● 「気をつけていない」が26.0%、「甘い飲み物、菓子に偏る」が16.9%、「スナック菓子」が15.7%と問題のある与え方が見られます。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

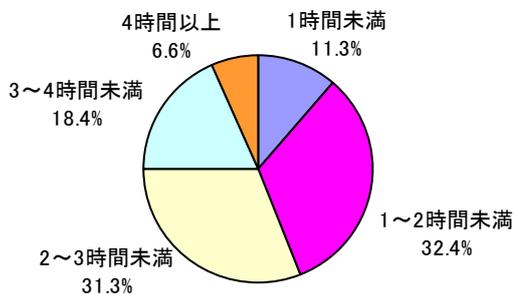
問. お子さんがふつう寝る時刻は何時頃ですか（保護者回答）



● 午後10時代以降の就寝時間が34.7%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. お子さんはテレビやビデオを見たり、テレビゲームなどをする時間は一日平均どれくらいありますか
(保護者回答)

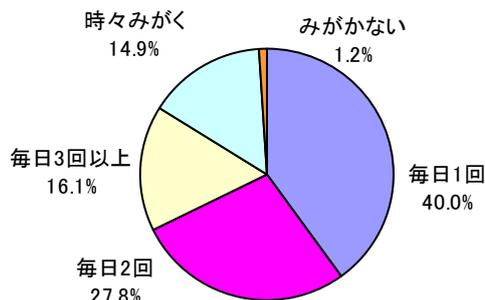


● 3時間以上が25.0%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(3) 歯の健康 (1歳以上)

問. お子さんは、歯をみがいていますか。
(保護者回答)



● 「みがかない」「時々みがく」をあわせると16.1%です。

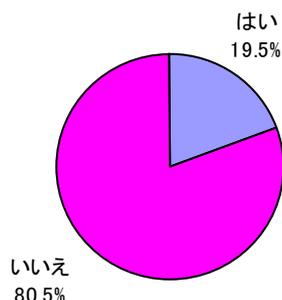
※仕上げみがきをしている保護者の割合…91.8%
(H18 二本松市3歳児歯科健診)

※幼児へのフッ化物歯面塗布の受診率…12.9%
(H18 二本松市母子保健報告)

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(4) 事故防止

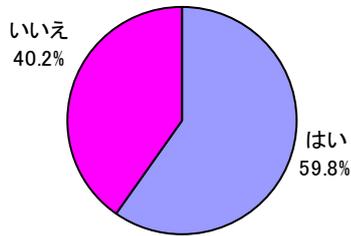
乳幼児が浴室ドアを一人で開けることができないような工夫がしてありますか。(保護者回答)



● 「はい」が19.5%したが、国(健やか親子21中間報告調査2005)の30.7%[1歳6か月児のいる家庭]より低くなっています。事故防止のため工夫をしましょう。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. ピーナッツやあめ玉を子どもの手の届くところにおかないようにしていますか。(保護者回答)

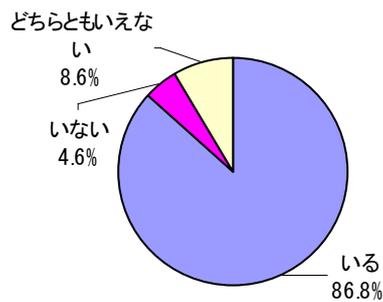


● 「いいえ」が40.2%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(5) 小児保健

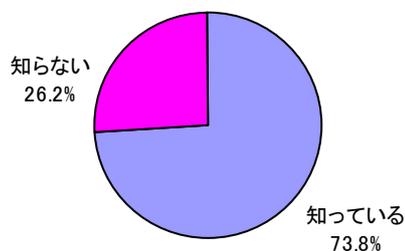
問. お子さんには、かかりつけの医師はいますか
(保護者回答)



● 「いない」と「どちらともいえない」を合わせると13.2%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 休日や夜間にお子さんが急病のとき、診察してもらえる医療機関を知っていますか(保護者回答)



● 「知っている」が73.8%でした。国(健やか親子21中間報告調査2005)の87.8%[1歳6か月児のいる家庭]より低くなっています。情報入手に努めましょう。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

◇ ワーキンググループ会議での意見（乳幼児期）

「乳幼児期の健康な暮らしを考えた場合、現状はどのようになっていますか？
また問題だと思うことはどんなことですか？」

○ 子どもの遊び場

子どもが自然と触れ合えるような公園が少ないと思う。

公園に段差があるところがありベビーカー（乳幼児を乗せる乗り物）が通れないことがある。

○ 子どもの病気の時

子どもが病気になり入院が必要になったときに入院できる病院が少ない。

子どもが病気になった時などは子どもを預かってくれる施設がない。

○ 子育てに余裕がない（不安を抱えている）

0歳児から預かってくれる施設がない。また、子どもを気軽に預けられる体制がとられていない。

母親がゆとりをもって子育てができる環境にない。

○ 経済的な問題

母子家庭、シングルマザー等の経済的に育児が大変な家庭が多いと思う。

◇ 健康課題のまとめ（乳幼児期）

① 育児に対して不安を抱えている保護者がいます

（H18 市民の健康と生活習慣調査、ワーキンググループ会議）

② 食生活や生活リズムが不規則など、生活習慣が乱れている乳幼児がいます

（H18 市民の健康と生活習慣調査）

③ 発達・発育などに何らかの問題があり支援が必要な乳幼児がいます

（乳幼児支援ケース検討会対象者約 40 名）

④ 不慮の事故による死亡があります

（人口動態統計、H18 市民の健康と生活習慣調査）

⑤ 乳幼児突然死症候群があります

（人口動態統計、H18 市民の健康と生活習慣調査）

3 学童期（6～12歳の親子）・思春期（13～18歳）

(1) 栄養・食生活

肥満傾向の割合

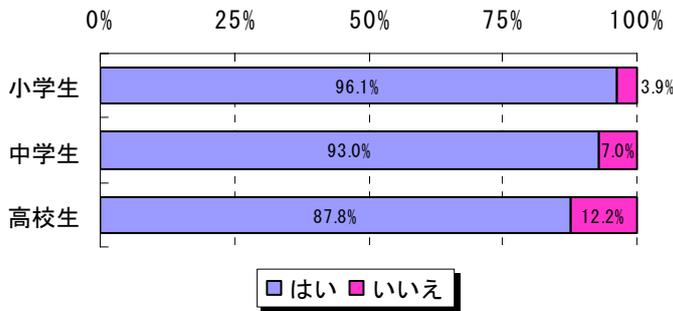
	全 国	福島県	二本松市
小学生	2.3%	3.8%	7.9%
中学生	1.6%	1.5%	6.9%

※「肥満傾向」の者＝学校医から肥満傾向と判定された者

- 全国や福島県よりも「肥満傾向」の者の割合が高くなっています。

資料：H17年度学校保健統計調査速報、安達地区学校保健統計

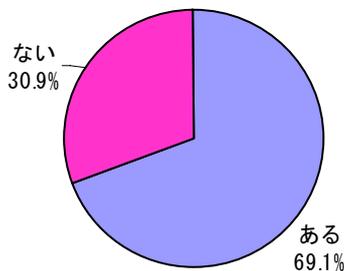
問. 朝食はだいたい毎日取っていますか



- 中高生になるに従い朝食の欠食が増えています。朝食の欠食が中高生から始まると大人になっても続く傾向があるようですので、注意が必要です。

資料：H18市民の健康と生活習慣調査

問. 子どもの食生活に気をつけて実行していることがありますか（小学生保護者回答）

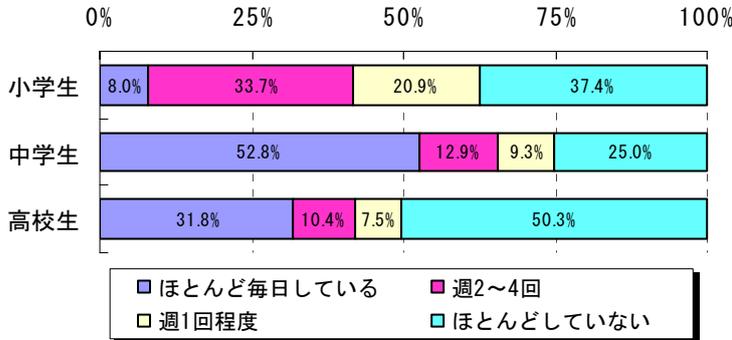


- 「ない」が30.9%でした。

資料：H18市民の健康と生活習慣調査

(2) 身体活動・運動

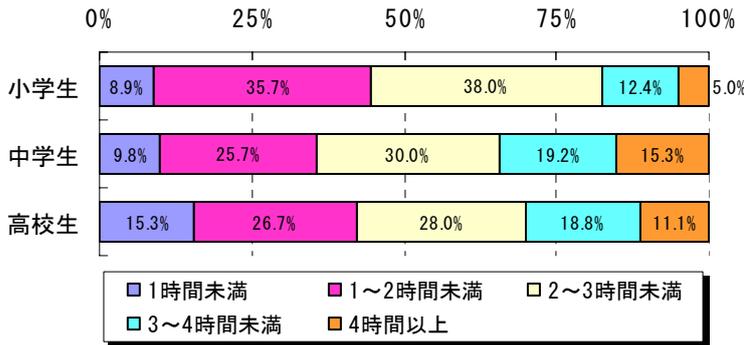
問. 普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか



● 中学生では52.8%が「ほとんど毎日運動している」と答えています。高校生は50.3%が「ほとんどしていない」と答えています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. テレビやビデオを見たり、テレビゲームなどをする時間は一日平均どれくらいありますか

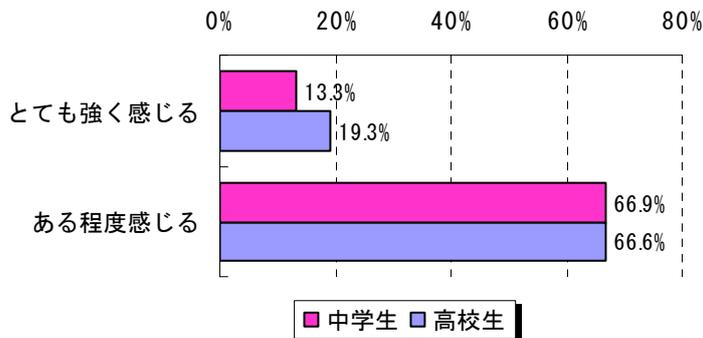


● 3時間以上の割合が中学生34.5%、高校生29.9%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(3) 休養・こころの健康

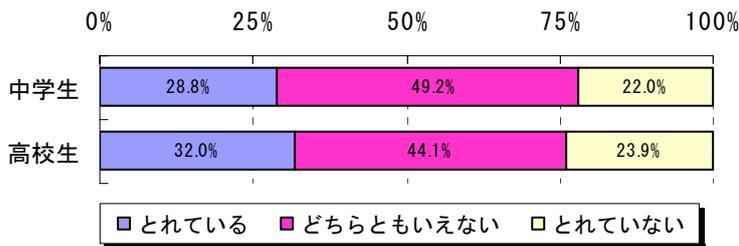
問. 日頃、ストレスを感じることがありますか



● 「とても強く感じる」が中学生13.3%、高校生19.3%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

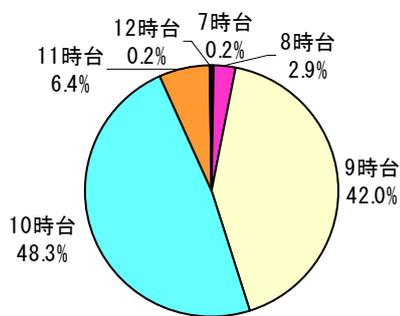
問. 睡眠が十分とれていると思いますか



● 「とれていない」が中学生 22.0%、高校生 23.9%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. ふつう夜寝る時刻は何時ごろですか（学童期）

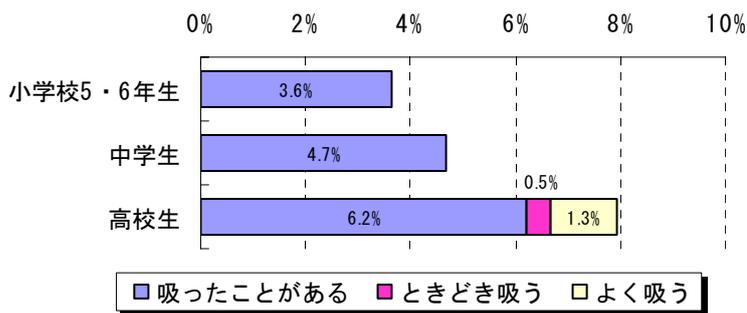


● 午後 11 時台と 12 時台の就寝時間を合わせると 6.6%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(4) たばこ

問. あなたはたばこを吸ったことがありますか



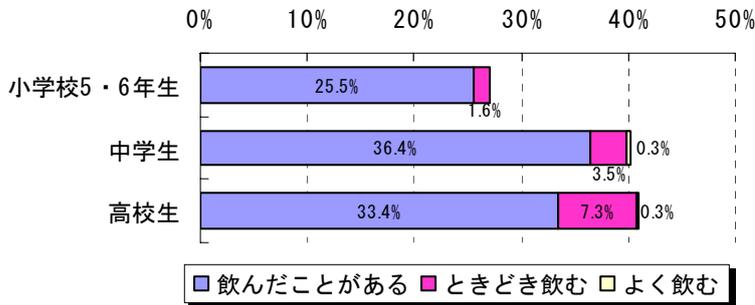
● 「吸ったことがある」が小学校 5・6 年生で 3.6%、中学生が 4.7%、高校生が 6.2%でした。

また、高校生では「ときどき吸う」0.5%、「よく吸う」1.3%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(5) アルコール

問. あなたはお酒やアルコール類を飲んだことがありますか



● 小学生の 27.1%の飲酒経験がありました。うち 1.6%が「ときどき飲む」答えています。

また、中高生になると約 4 割の飲酒経験があり、うち中学生の 3.5%、高校生の 7.3%が「ときどき飲む」、中高生のそれぞれ 0.3%が「よく飲む」と答えています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(6) 歯の健康

むし歯の罹患率

	全国	福島県	二本松市
小学生全体	68.2%	74.2%	84.1%
中学校1年生	62.7%	67.7%	77.0%

● むし歯の罹患率が全国や福島県と比較して高くなっています。

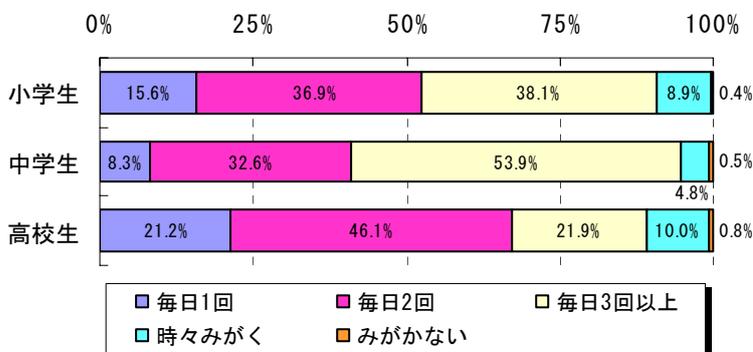
資料：H17 年度学校保健統計調査速報、安達地区学校保健統計

一人あたり平均むし歯数

	全国	福島県	二本松市
小学校6年生	-	-	1.81
中学校1年生	1.80	2.00	2.52

資料：H17 年度学校保健統計調査速報、安達地区学校保健統計

問. あなたは、歯をみがいていますか

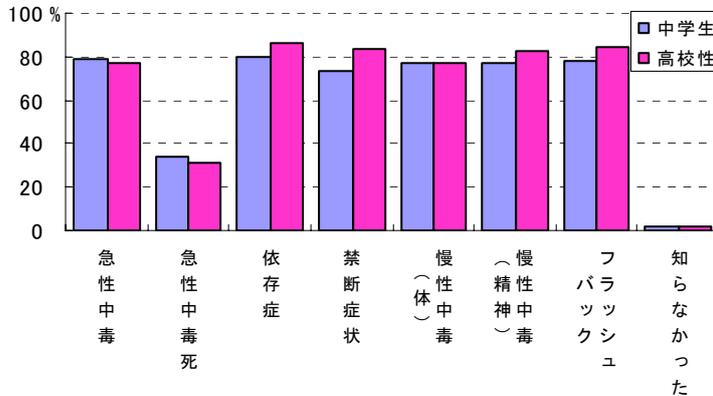


● 高校生では「毎日3回以上」みがく割合が 21.9%で小学生、中学生に比べて低くなっています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(7) 思春期保健

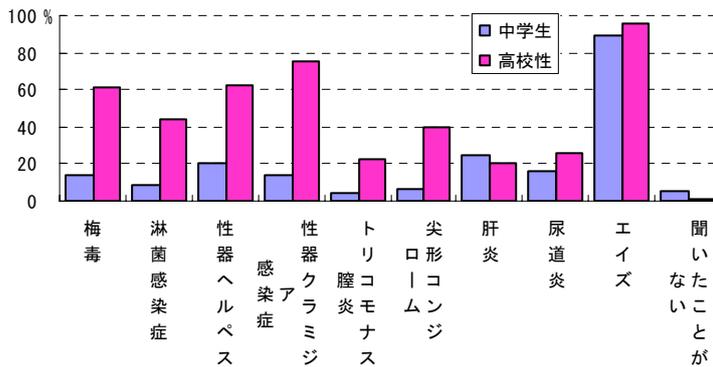
問. 覚せい剤等の薬物を使った場合、心や体に次のような害があることを知っていましたか（複数回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

● 「急性中毒死」以外の各項目で 7~8 割程度知っているかと答えています。

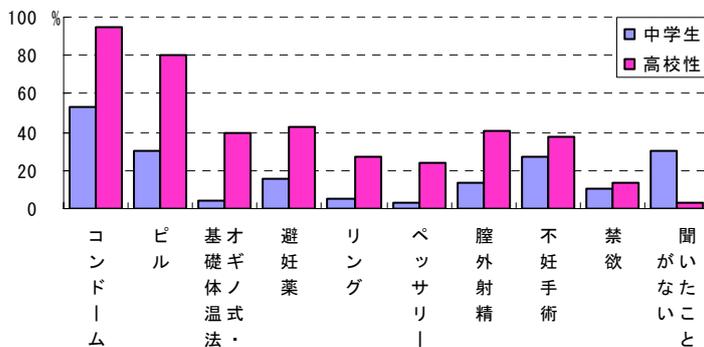
問. あなたが今までに聞いたことがある性感染症を教えてください（複数回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

● エイズは中高生とも 9 割程度知っていましたがその他の性感染症の情報は十分といえないようです。

問. あなたが今までに聞いたことがある避妊法を教えてください（複数回答）

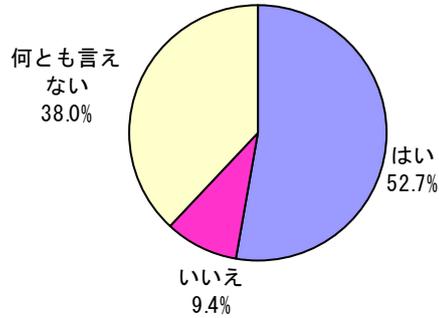


資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

● 各項目とも高校生の方が知っている割合が高いです。

(8) 育児不安（学童期）

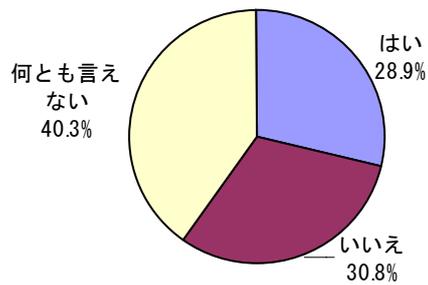
問. お母さんはゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がありますか（母親回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「はい」が 52.7%に対し、「いいえ」が9.4%でした。乳幼児期（P25）の母親と比較して「いいえ」の割合が高くなっています。

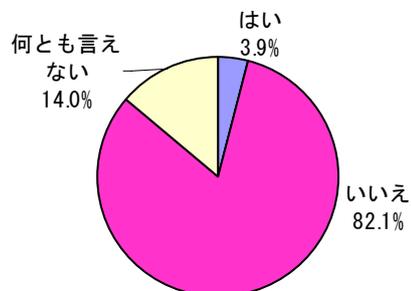
問. お母さんは子育て（養育）に自信が持てないことがありますか。（母親回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「自信が持てない」が 28.9%でした。

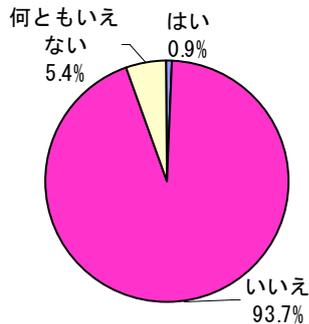
問. お母さんは子どもを虐待しているのではないかと考えることがありますか。（保護者回答）



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

- 「はい」が3.9%でした。

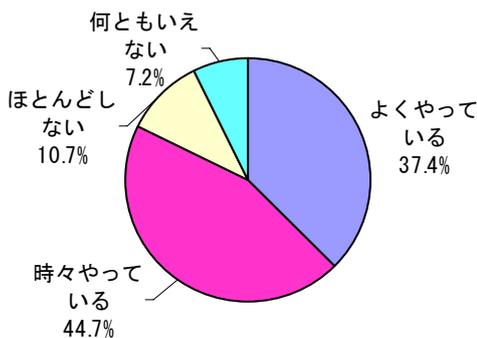
問. お父さんは子どもを虐待しているのではないかと思いますか（保護者回答）



● 「はい」が0.9%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

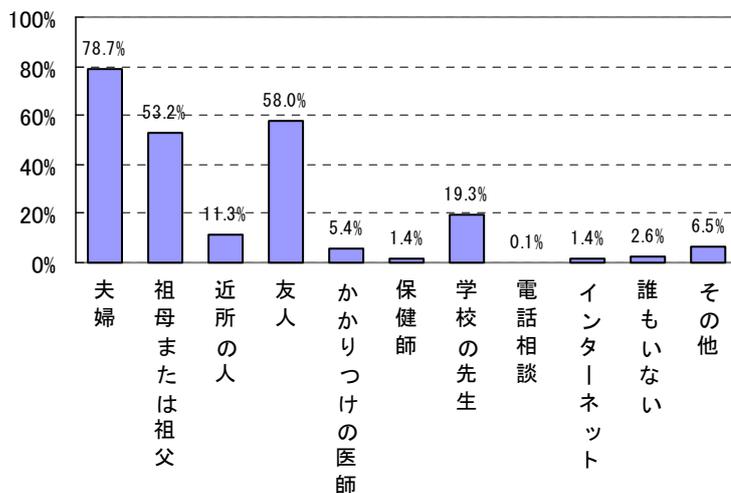
問. お父さんは子育て（養育）に参加してくれますか（保護者回答）



● 「ほとんどしない」が10.7%でした。乳幼児期（P26）と比較して約2倍のお父さんが子育てに参加していない結果となっています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. お母さんの日常の子育て（養育）の相談相手は誰ですか（母親回答）



● 「誰もいない」が2.6%でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

◇ ワーキンググループ会議での意見（学童期）

「学童期の健康な暮らしを考えた場合、現状はどのようになっていますか？
また問題だと思うことはどんなことですか？」

○ 生活環境

家に帰っても家族がいない。

兄弟が少ない。

少子化で、近所の子ともと一緒に遊べない。

近所の大人と子どもとの交流が薄れている。

○ 子ども

習いものや塾に行く子とスポーツ少年団に入団する子が増加している。

テレビゲーム等を実施する子が増え、外で遊ばなくなっている。

友達づくりが下手になっている。

○ 食生活

共働きや父親の残業等で家族がそろって食事が取れない。

朝食を摂取しない子どもが増えている。

孤食の子どもが増えている。

偏食の子どもが増えている。

冷凍食品、レトルト食品、市販弁当等の利用が増加し、親の手作り料理が減っている。

健康課題のまとめ（学童期）

- ① **子どもの肥満、朝食の欠食、運動不足などの生活習慣病の因子が発生しています**
(H18 市民の健康と生活習慣調査、学校保健統計、ワーキンググループ会議)
- ② **むし歯が多いです**
(学校保健統計)
- ③ **小学生の飲酒があります**
(H18 市民の健康と生活習慣調査)
- ④ **小学生の喫煙があります**
(H18 市民の健康と生活習慣調査)
- ⑤ **保護者が子育てに関して不安を抱えています**
(H18 市民の健康と生活習慣調査)

◇ ワーキンググループ会議での意見（思春期）

「思春期の健康な暮らしを考えた場合、現状はどのようになっていますか？
また問題だと思うことはどんなことですか？」

○ 家庭生活

家に帰っても家族がいない。近所の大人との交流が薄れている。親子関係が難しくなっている。親が、兄弟や他の子と比較したり、注意や叱ることが多いほど子どもとの関係は困難になる。

○ 食生活

共働きや父親の残業等で家族がそろって食事が取れない。

朝食欠食が増えている。孤食が増えている。偏食が増えている。冷凍食品、レトルト食品、市販弁当等の利用が増加し、親の手作り料理が減っている。

○ 友人関係

仲間はずれやいじめられている子が増加している。友達関係が原因で、不登校・月曜日や連休後に休む子が増加している。友達関係の浮き沈みが激しい。

○ 子ども自身

目標を持たないまま進学や生活をしている子が増えている。

○ 思春期の子を見る大人

男女交際をしている姿を嫌がる傾向がある。進学をしない子は普通でないと思う傾向がある。

健康課題のまとめ（思春期）

① 肥満などの生活習慣病の予備群が発生しています

（H18 市民の健康と生活習慣調査、ワーキンググループ会議）

② むし歯・歯周病が多いです

（学校保健統計、疾病分類統計）

③ 自殺やストレスを感じる割合が高いなど心の問題があります

（人口動態統計、H18 市民の健康と生活習慣調査、ワーキンググループ会議）

④ 中・高校生の飲酒があります

（H18 市民の健康と生活習慣調査）

⑤ 中・高校生の喫煙があります

（H18 市民の健康と生活習慣調査）

⑥ 人工妊娠中絶や性感染症などの性に関する問題が多いです

（厚生労働省「衛生行政報告例」、H18 市民の健康と生活習慣調査）

⑦ 薬物による健康被害が増えています

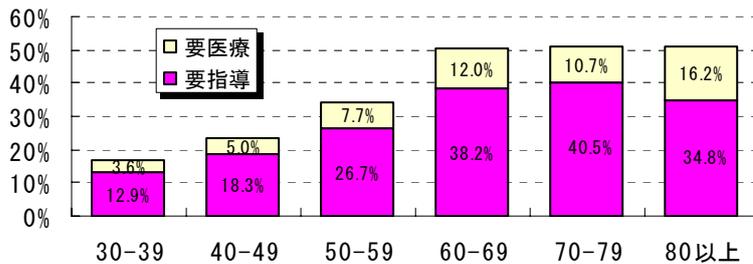
（県警察本部生活安全部少年課少年の補導及び保護の概要、H18 市民の健康と生活習慣調査）

3 青年期（19～39歳）・壮年期（40～64歳）・ 高齢期（65歳～）

(1) 二本松市基本健康診査結果について

① 血圧の要医療、要指導の割合

《男性》

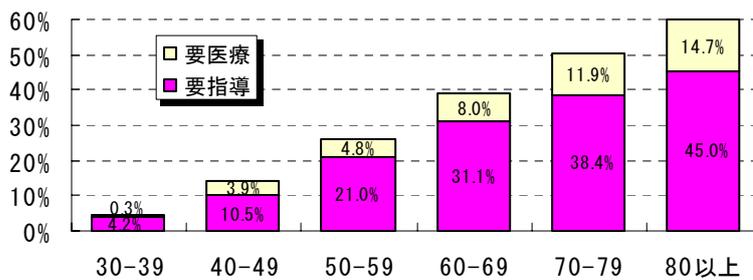


● 男女とも年齢が高くなるにつれ血圧に問題を抱える割合が多くなってきます。

* 血圧の判定基準

収縮期（最高）血圧、拡張期（最低）血圧のいずれかが要指導（軽度異常）、要医療（異常）と判定された者。要医療には通院中の場合も含む。

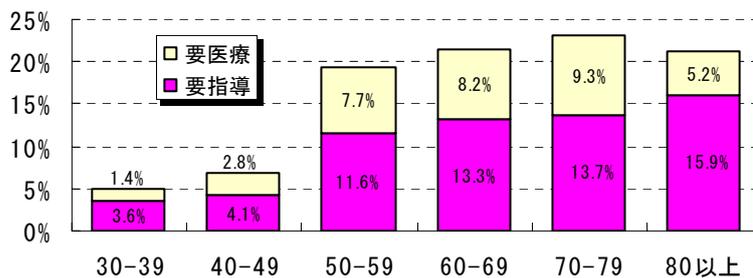
《女性》



資料：H18 二本松市基本健診結果

② 糖の要医療、要指導の割合

《男性》

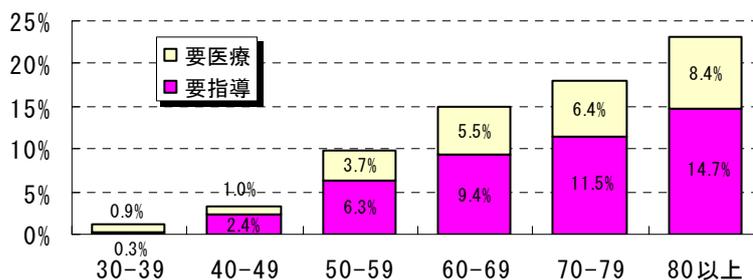


● 男女とも 50 歳代で「要医療」「要指導」の割合が高くなってきています。

* 糖の判定基準

尿糖、血糖、ヘモグロビン A1c のいずれかが、要指導（軽度異常）、要医療（異常）と判定された者。要医療には治療中の者も含む。

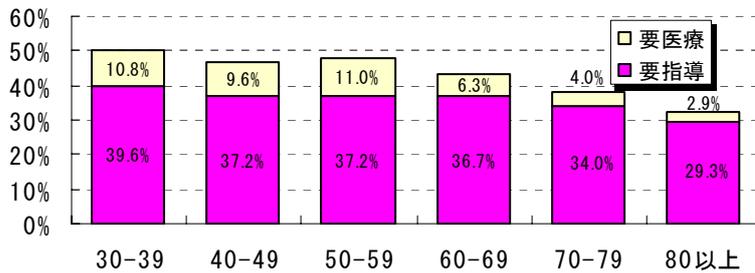
《女性》



資料：H18 二本松市基本健診結果

③ 脂質の要医療、要指導の割合

《男性》

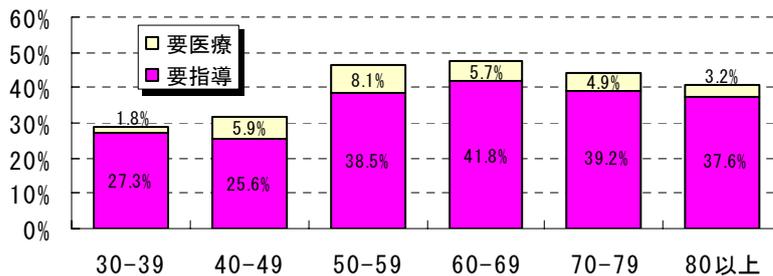


● 男性は30歳代が、女性は60歳代が最も高い割合となっています。

* 脂質の判定基準

総コレステロール、HDL コレステロール、中性脂肪のいずれかの判定が要指導（軽度異常）、要医療（異常）と判定された者。要医療には治療中の者も含む。

《女性》

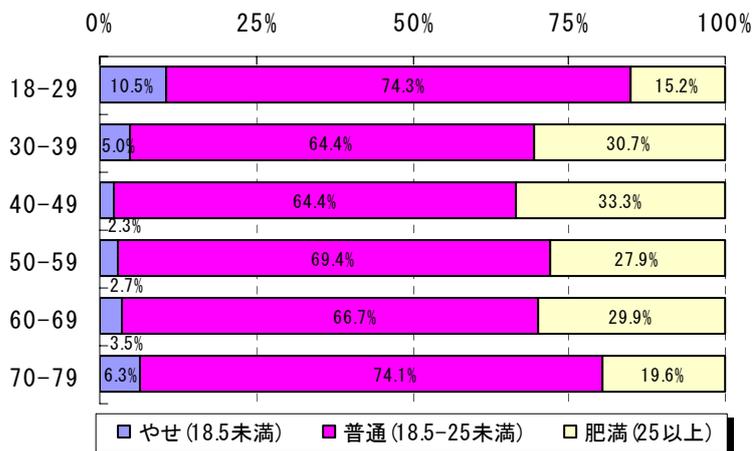


資料：H18 二本松市基本健診結果

(2) 栄養・食生活

肥満の割合 (BMI 判定値)

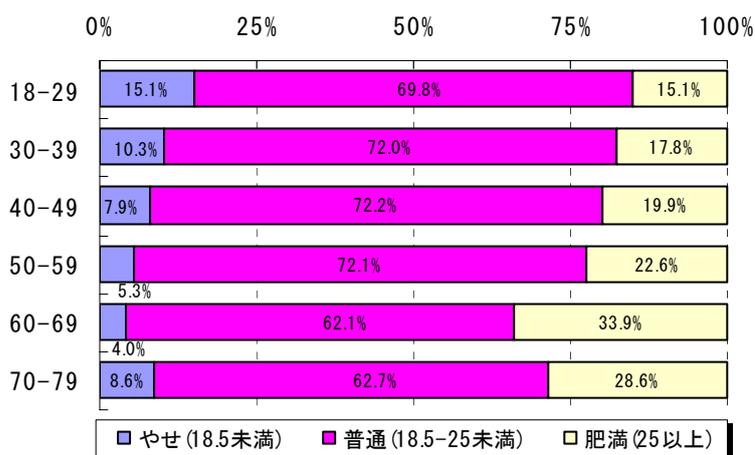
《男性》



● 30～60歳代の約3割が肥満です。

* BMI 体重kg ÷ (身長m)²
(体格指数)

《女性》

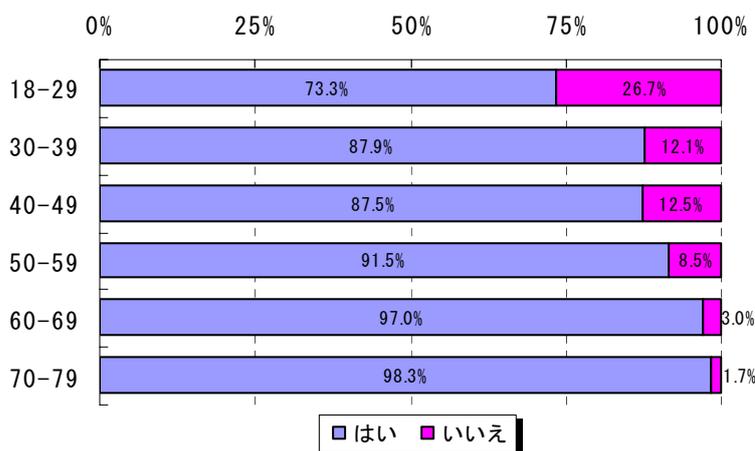


● 60歳代で最も肥満者の割合が高くなっています。

*BMI 体重kg ÷ (身長m)²
(体格指数)

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

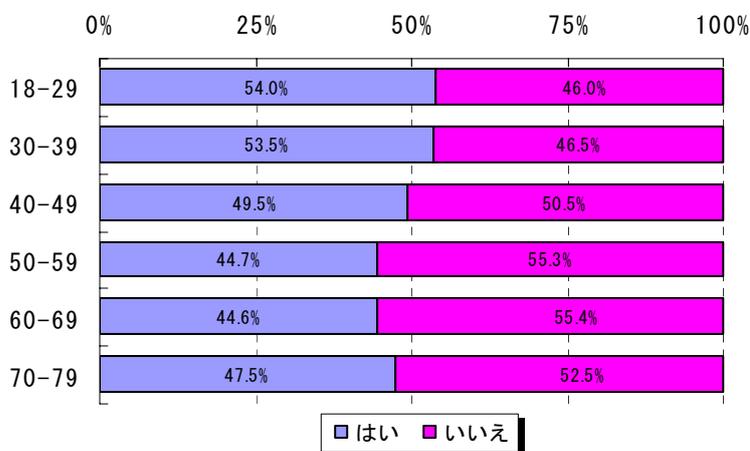
問. 朝食はだいたい毎日とっていますか



● 18~29歳で最も朝食の欠食の割合が高くなっています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

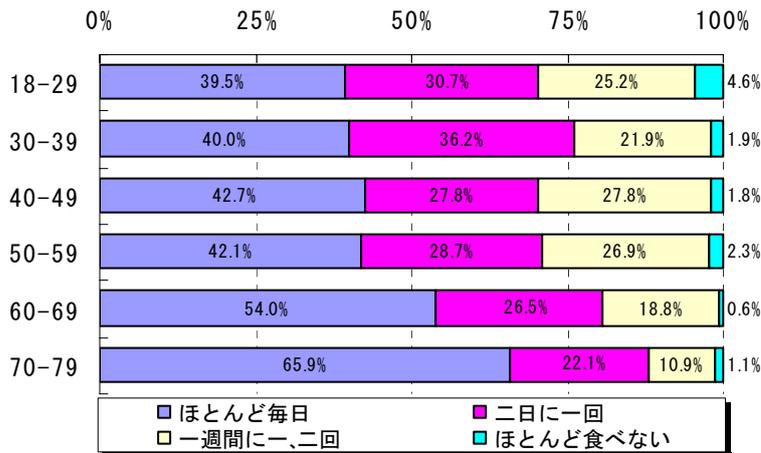
問. 間食をとる習慣がありますか



● 各年代とも約半数が間食をとる習慣があると答えています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 野菜を一週間にどのくらい食べますか

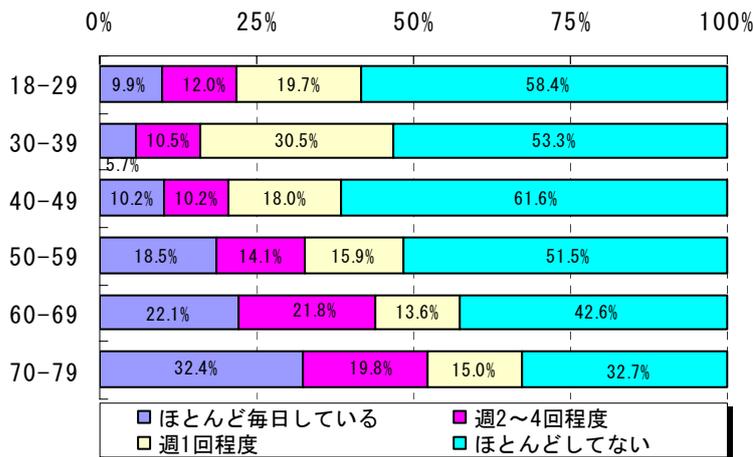


● 若い年代ほど「ほとんど毎日」の割合が低くなっています。
 国（健康日本 21）では1日350g以上の野菜摂取を推奨しています。できるだけ毎日野菜をとるよう心掛けましょう。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(3) 身体活動・運動

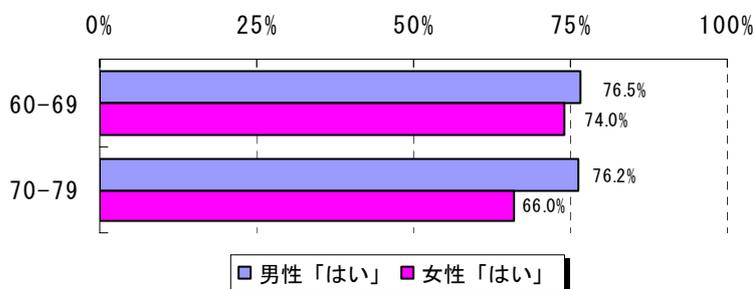
問. 最近一年間の運動について



● 40歳代で「ほとんどしていない」の割合が最も高くなっています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

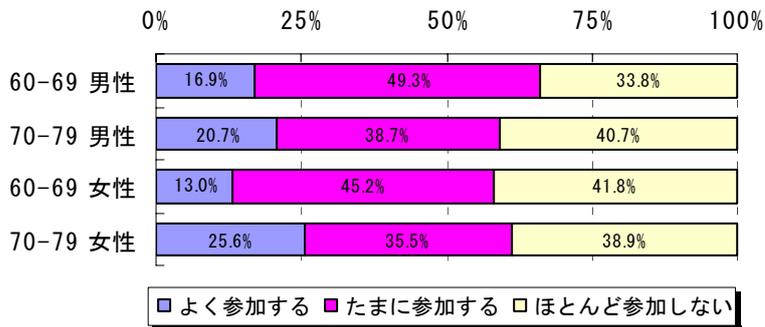
問. 積極的に外出するほうですか（60歳以上）



● 積極的に外出する割合が女性では70歳台になると少し低くなっています。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 地区の催しや行事（公民館活動など）に参加していますか（60歳以上）

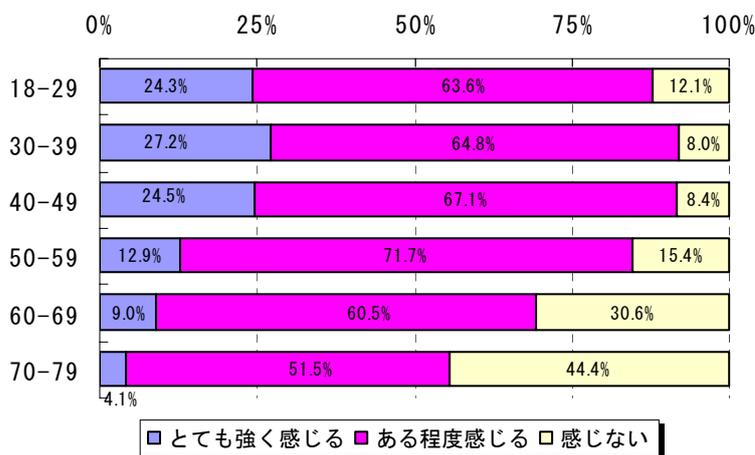


● 「よく参加する」と「たまに参加する」を合わせると約6割以上が参加していました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(4) 休養・こころの健康

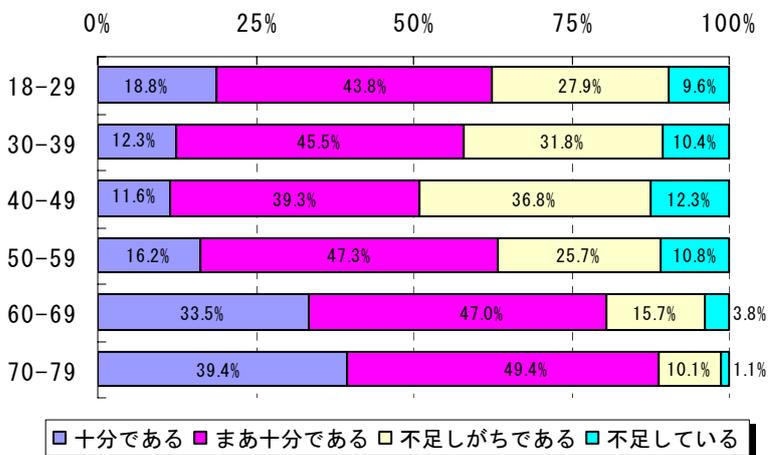
問. 日頃、ストレスを感じることがありますか



● ストレスを「とても強く感じる」割合が40歳代以下で高くなっていました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

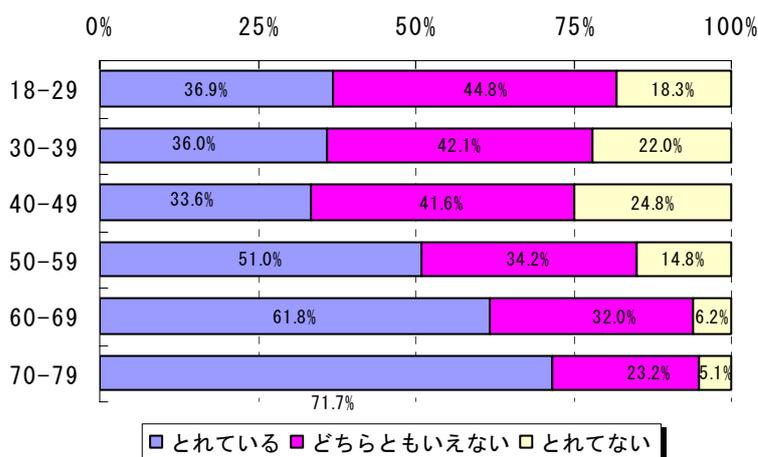
問. 自分の休養は十分だと思いますか



● 「不足しがちである」と「不足している」を合わせると30~40歳代では4割以上となっていました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 睡眠が十分にとれていると思いますか



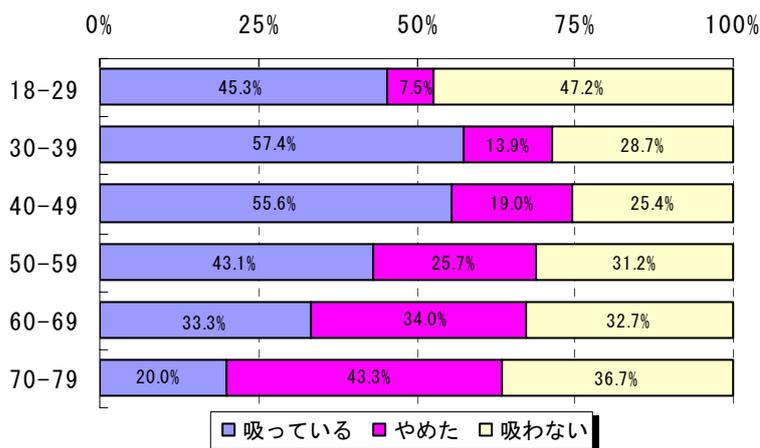
● 「とれていない」が20～40歳代にかけ2割程度見られます。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(5) たばこ

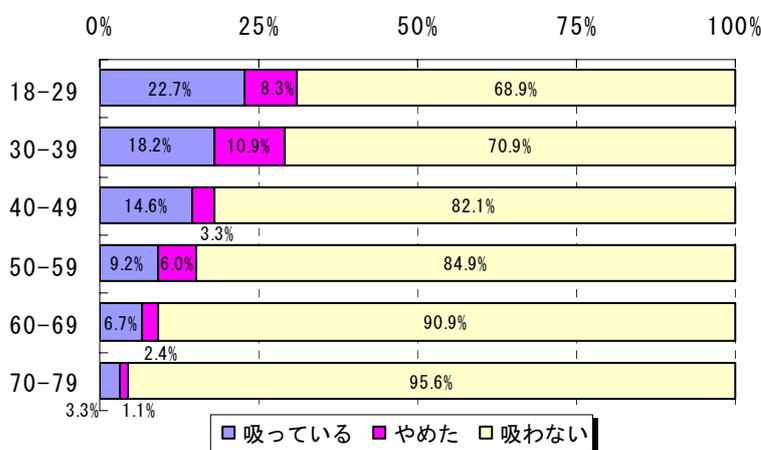
問. あなたはたばこを吸いますか

《男性》



● 吸っている割合が30歳代で最も高くなっていました。また、30歳代は、福島県（平成17年度県民健康調査報告書）よりも3.9%高い喫煙率でした。

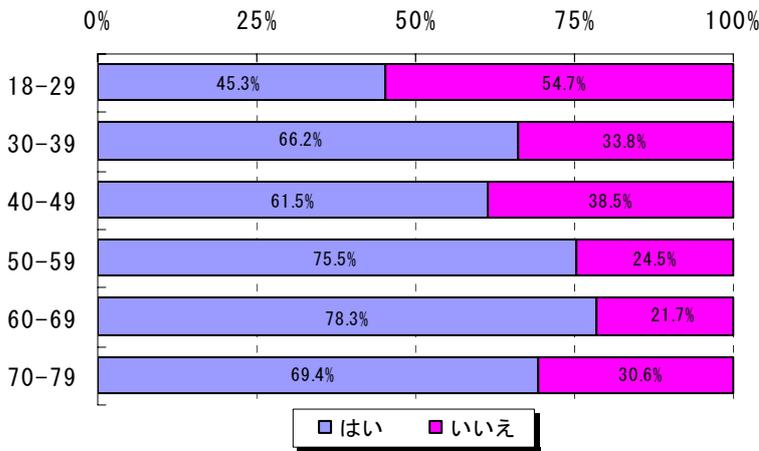
《女性》



● 29歳以下が最も喫煙率が高くなっていました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

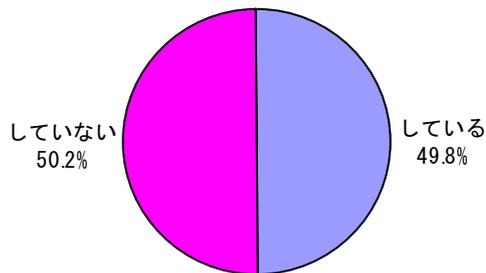
問. 「吸っている」方におたずねします
禁煙することに関心がありますか



● 30 歳代以上は 6 割以上が「関心がある」と回答していました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 「吸っている」方におたずねします
家の中で、たばこを吸う場所や時間の工夫（分煙）をしていますか

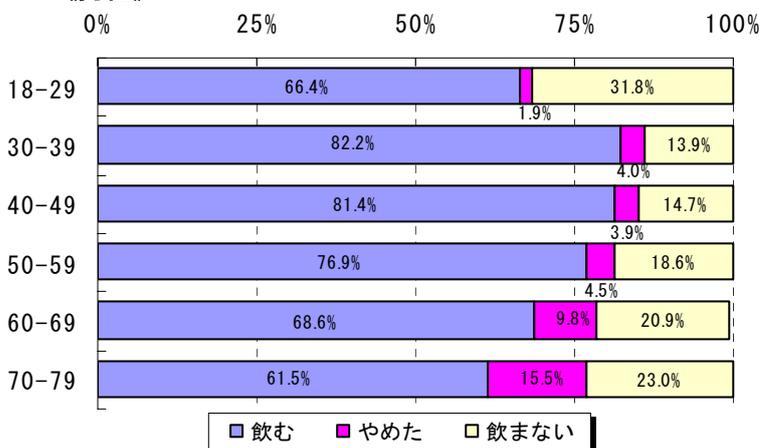


● 自宅での分煙をしていないが 50.2% を占めていました。非喫煙者への配慮が必要です。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

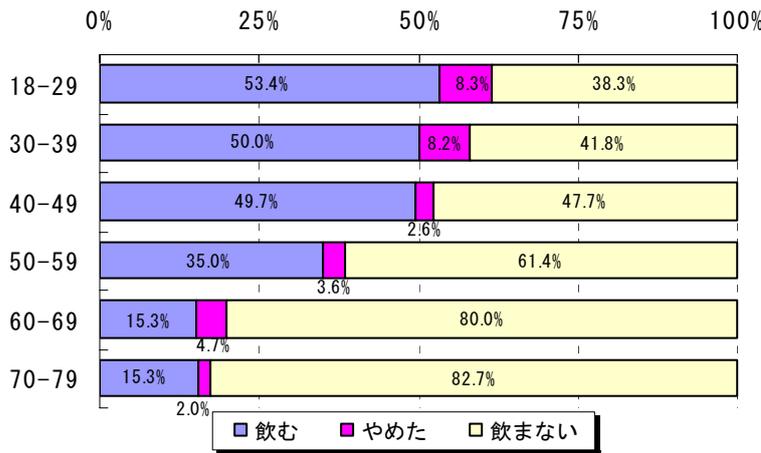
(6) アルコール

問. あなたはお酒（アルコール類）を飲みますか
《男性》



● 「飲む」割合が 30 歳代で最も高くなっていました。

《女性》

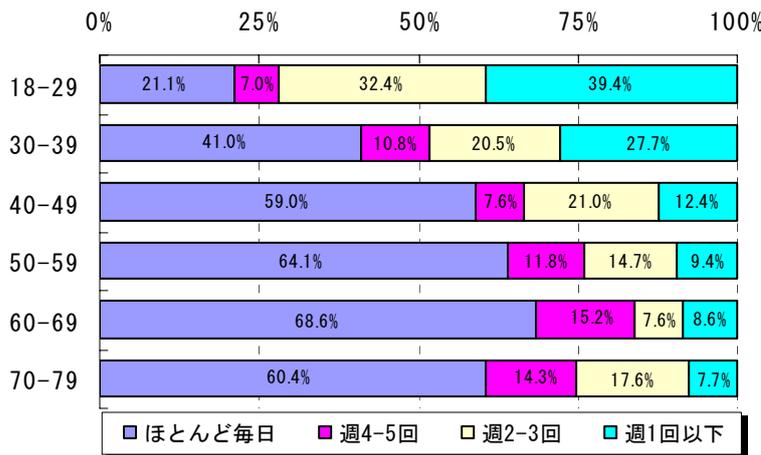


● 「飲む割合が」18～29 歳で最も高くなっていました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

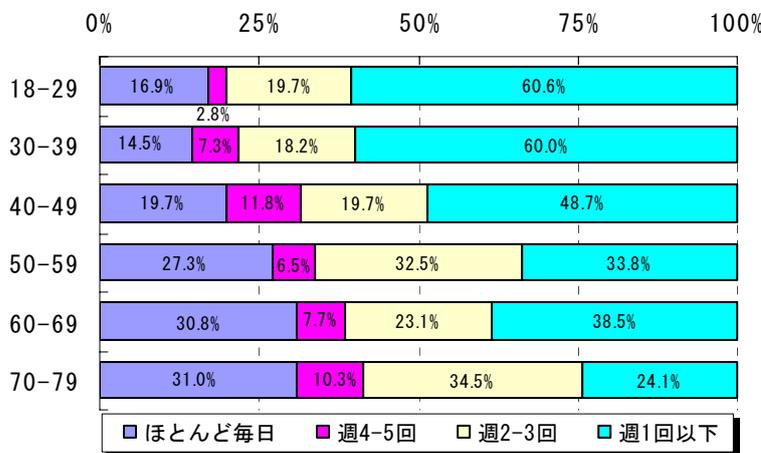
問。「飲む人」におたずねします。どのくらいの頻度で飲みますか

《男性》



● 30 歳代以上は「ほとんど毎日」が4 割以上です。休肝日を意識してみましょう。

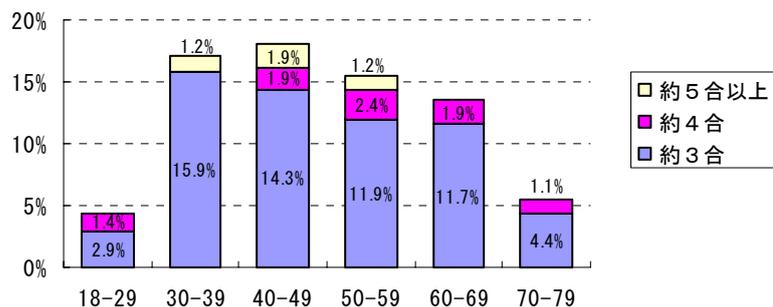
《女性》



● 「ほとんど毎日」が年齢が上がるにつれ高くなっていました。60 歳代以下は「週1 回以下」が最も多いです。

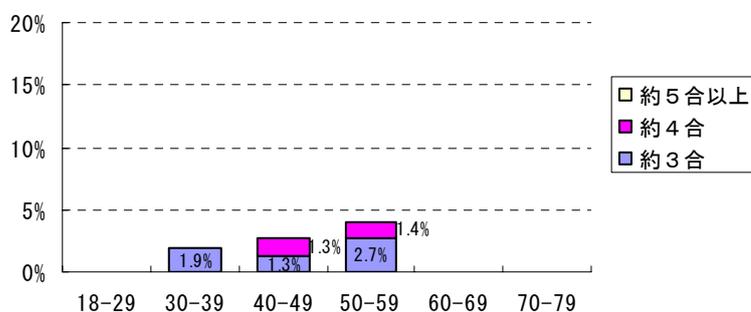
資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 「飲む人」におたずねします。1日あたりどのくらいですか
《男性》



- 30歳代以降は、福島県（平成17年度県民健康調査報告書）よりも高い割合でした。休肝日の他に毎日飲む量を減らすよう努めましょう。

《女性》

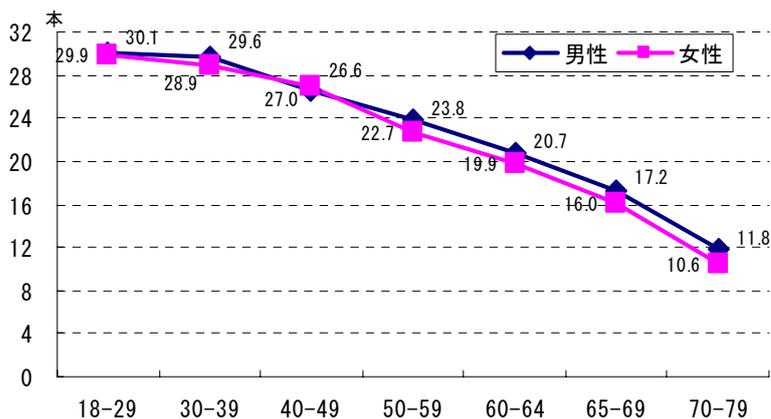


- 50歳代で福島県（平成17年度県民健康調査報告書）よりも高い割合でした。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

(7) 歯の健康

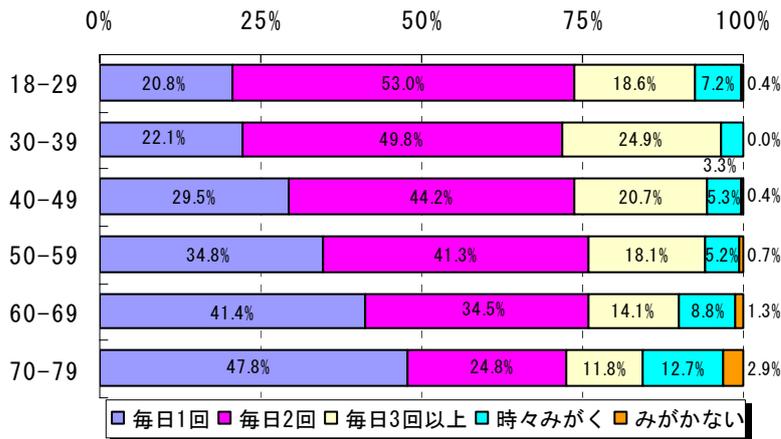
問. 現在、あなたの歯は何本ですか（平均値）



- 80歳で20本以上を目標とするため、若いうちから歯みがきや定期的な歯科健診に取り組みましょう。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

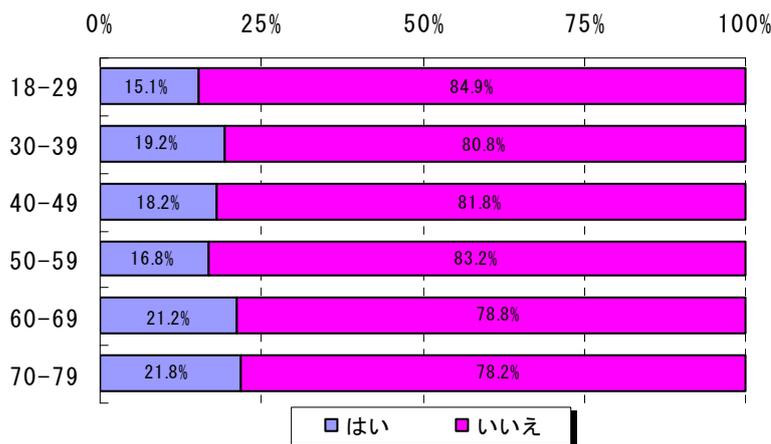
問. あなたは、歯をみがいていますか。



● 30歳代以上では「毎日3回以上みがく」人の割合が福島県（平成17年度県民健康調査報告書）と比較して低くなっていました。

資料：H18市民の健康と生活習慣調査

問. あなたは定期的に歯科健診（歯石の除去、歯面清掃を含む）を受けていますか。

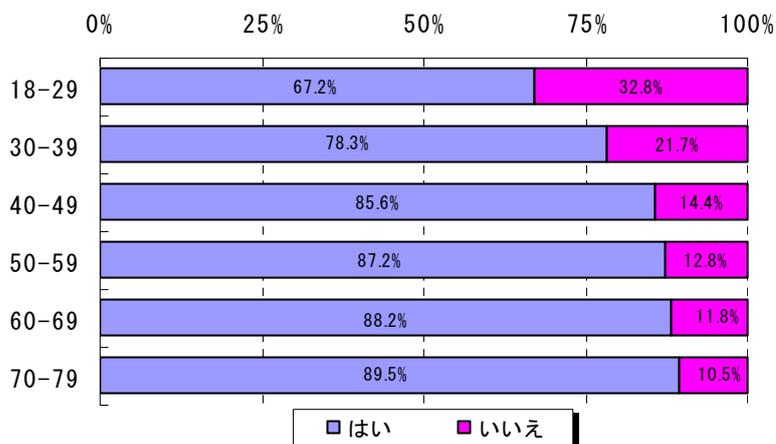


● 30歳代以上では定期的に歯科健診を受ける人の割合が福島県（平成17年度県民健康調査報告書）と比較して高くなっていました。

資料：H18市民の健康と生活習慣調査

(8) 各種検診の受診率

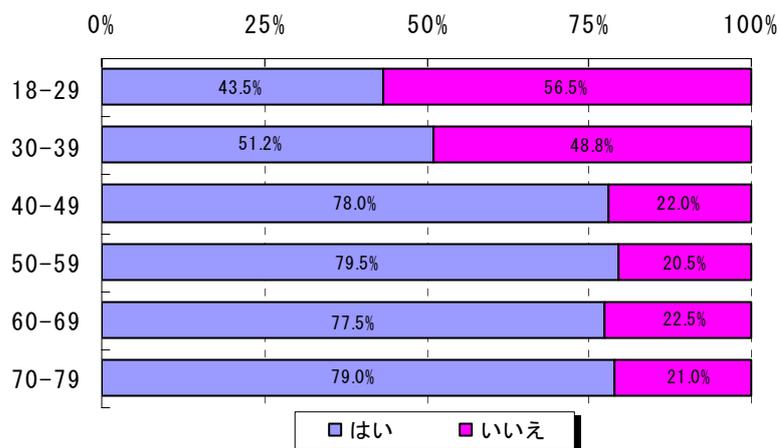
問. 最近一年間に受けた検診：健康診断



● 年齢が上がるにつれ検診を受ける人が多くなっていました。自己の健康管理のために年に一度は健康診断を受けましょう。

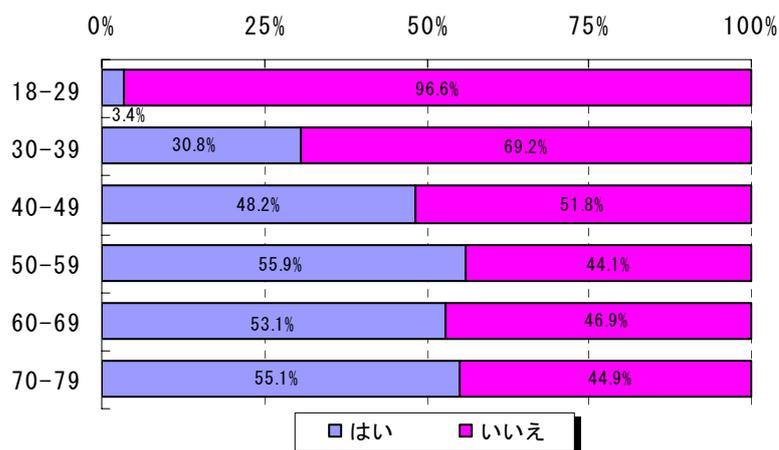
資料：H18市民の健康と生活習慣調査

問. 最近一年間に受けた検診：結核・肺がん検診



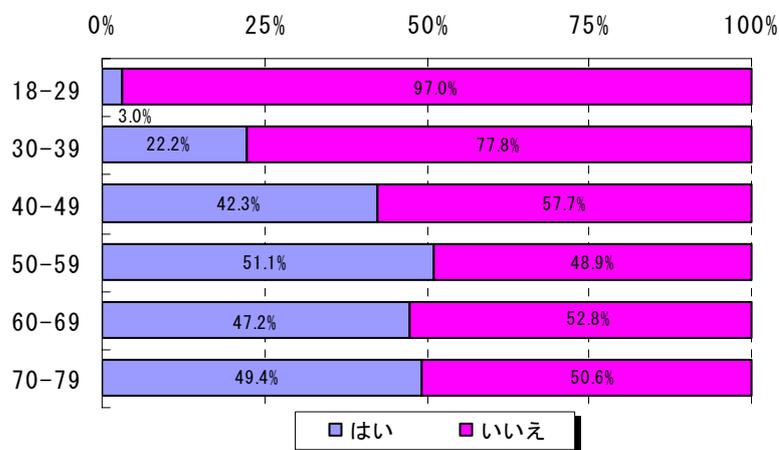
資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 最近一年間に受けた検診：胃がん検診



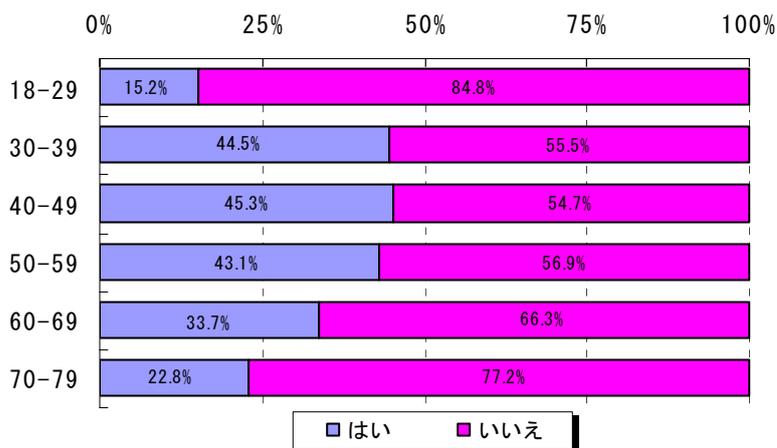
資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 最近一年間に受けた検診：大腸がん検診



資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

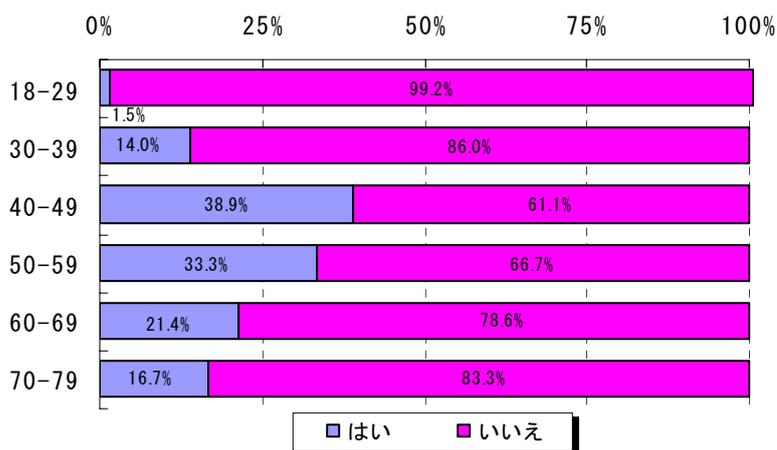
問. 最近一年間に受けた検診：子宮がん検診



● 29歳以下の年代では受診率が低くなっていました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

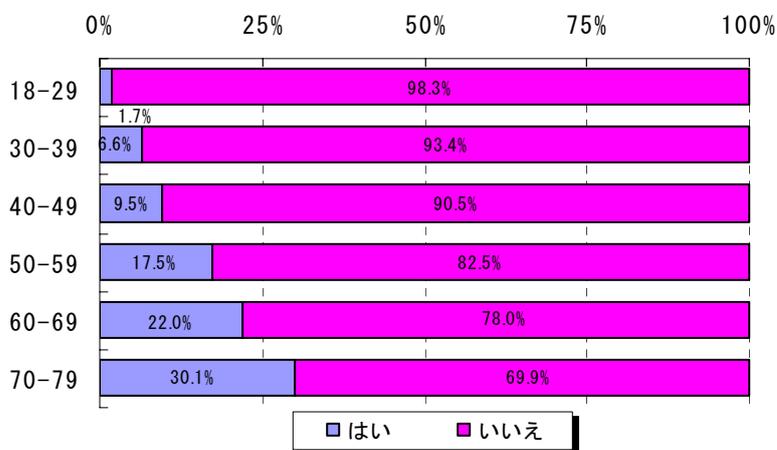
問. 最近一年間に受けた検診：乳がん検診



● 40歳代が最も受診率が高くなっていました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

問. 最近一年間に受けた検診：骨粗しょう症検診



● 年代が上がるにつれ受診率が高くなっていました。

資料：H18 市民の健康と生活習慣調査

◇ ワーキンググループ会議での意見（青年期）

「青年期の健康な暮らしを考えた場合、現状はどのようになっていますか？
また問題だと思うことはどんなことですか？」

○ 体力の衰え

20代前半で、すでに体力の衰えを感じている。

○ 不安を抱えて生活している

夢と理想のギャップがある。夢・目標がないままに楽しく遊んでいるが、本当は不安である。

仕事がなく不安定。仕事を紹介されても自分にあっていないと断り、無職のまま。

○ 運動不足

車があるから歩かない。

疲れると、お惣菜を買って済ませてしまう。

○ ストレス

仕事と家庭を切り離して考えるのは難しい。家に帰ってもイライラして八つ当たりする。職場の嫌なことを引きずってしまう。

○ 経済的な不満

好きなことをやるにはお金がかかり、そのためにできないこともある。

健康課題のまとめ（青年期）

① 自殺による死亡が最も多いです

（人口動態統計、ワーキンググループ会議）

② 肥満や脂質異常が多い、運動習慣者が少ないなどの生活習慣病予備群が多いです

（H18 市民の健康と生活習慣調査、ワーキンググループ会議）

③ 歯周病が多いです

（疾病分類統計）

④ 喫煙率が高いです

（H18 市民の健康と生活習慣調査）

⑤ アルコールの多量飲酒者が多いです

（H18 市民の健康と生活習慣調査）

◇ ワーキンググループ会議での意見（壮年期）

「壮年期の健康な暮らしを考えた場合、現状はどのようになっていますか？
また問題だと思うことはどんなことですか？」

○ 年齢を重ねると

年配になると、元気な人とそうでない人の個人差が大きくなり、病気などになることは「歳だからしょうがない」とあきらめている。
歳をとると、知恵でカバーして体を動かそうとしない傾向があると思う。

○ 性格

性格的に家にいるのが好きな人もいる。

○ 経済的な問題

活動するためにはお金がかかり、そのために参加できないこともある。
現代は車社会であり、車を運転できないと、遠くの会場まで参加できない。

○ 役割があってもなくても

家族のなかで役割が決まっていると自由に活動できず、なかなか自分の時間を持つことができない。一方では何の役割もない人は暗い雰囲気がある。

○ 健康づくりの難しさ

健康づくりを続けていく上で、一人で運動などを実践してゆくのは続けてゆくのは難しい。

健康課題のまとめ（壮年期）

- ① 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患などの三大死因による死亡が顕在化してきます
(人口動態統計)
- ② 自殺による死亡が多いです
(人口動態統計)
- ③ 高血圧性疾患や糖尿病などの生活習慣病になる人が増えてきます
(疾病分類統計)
- ④ 歯周病などにより歯を失う人が増えてきます
(H18 市民の健康と生活習慣調査)
- ⑤ 喫煙率が高いです
(H18 市民の健康と生活習慣調査)
- ⑥ アルコールの多量飲酒者が多いです
(H18 市民の健康と生活習慣調査)

◇ ワーキンググループ会議での意見（高齢期）

「高齢期の健康な暮らしを考えた場合、現状はどのようになっていますか？
また問題だと思うことはどんなことですか？」

○ 行動範囲が狭まる

健康に不安を抱えている場合が多く、行動が制限されてしまう。

○ 経済的に苦しい

年金が少ない。生活するだけで精一杯。

金銭の問題があり、（介護）施設に入所できない。老後に向け貯蓄しなければならない。

○ ふれあい（交流）が少ない。

趣味などが全くなり、他人とのつながりを持ってない人がいる。

若いときに地域行事に参加していない人（特に男性）は、地域とのつながりが少ないのではないか。

いざ一人暮らしになったとき、どうしても閉じこもりがち（孤独に）になる傾向がある。

○ 介護問題がある

高齢者が高齢者を介護している現状（老々介護）で介護者の健康も危ういのではないか。

健康課題のまとめ（高齢期）

- ① 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患が三大死因になっています
（人口動態統計）
- ② 肺炎による死亡が多いです
（人口動態統計）
- ③ 高血圧性疾患や糖尿病などの生活習慣病が多いです
（疾病分類統計）
- ④ 平均歯保有数が20本を下回ります。
（H18 健康と生活習慣調査）
- ⑤ 高齢によりADL¹が低下してきます
（要介護者の増加、ワーキンググループ会議）
- ⑥ 自殺者の割合が増加しています
（人口動態統計、ワーキンググループ会議）

1 ADL

ADLとは「Activities of Daily Living」の略で、食事、排泄、着脱衣、入浴、移動、寝起きなど、日常生活を送るために必要な基本動作すべてを指す。高齢者の身体活動能力や障害の程度をはかるための重要な指標となっている。